

令和 8 年 (2026)

# JAてんどう病害虫防除暦

安全・安心な天童の農産物を消費者へ届けるために

- 農薬の使用基準を守り適正な防除に努めましょう。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。農薬の使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- 生産工程管理表を正確に必ず記入しましょう。
- 農薬散布時の飛散には十分注意し、住民及び環境に対する安全に努めましょう。

## 水 100 ℥ 当たり農薬希釈早見表

倍率	30倍	50	100	200	250	300	350	400	450	500	600	700	750
薬剤量 g・mℓ	3,333	2,000	1,000	500	400	333	285	250	222	200	166	142	133

倍率	800倍	1,000	1,200	1,500	2,000	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	10,000
薬剤量 g・mℓ	125	100	83	66	50	40	33	25	20	16	14	12	10

希釈農薬量算出式 (水和剤・水溶液・フロアブル・乳剤・液剤)  
散布量 (水 : リットル) ÷ 希釈倍数 × 1,000 = 必要農薬量 (g・ml)



J A てんどう  
JA 全農山形  
天童市農協農畜産物安全安心推進本部

JAてんどう情報サービス

<https://www.jatendo.or.jp/>

# 令和8年 水稻病害虫防除基準

JJAてんどう

2025年11月1日現在

## 種子消毒

※ 種子更新は毎年必ず行う。

対象病害虫	使用薬剤	使用方法	注意事項	月日	防除実績(メモ)						
いもち病・ばか苗病 苗立枯・細菌病 こま葉枯病・褐条病 もみ枯・細菌病 苗立枯病(リゾーブス菌・トリコデルマ菌)	テクリードCフロアブル (浸種前: 1回)	浸漬処理 塩水選を行い、水洗いした種もみの水を切り、200倍液(水20Lに対してテクリードCフロアブル現物100ml)に24時間浸漬する。	(1) 薬液の使用量 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"><tr><td>乾燥種もみ</td><td>水</td><td>テクリードCフロアブル</td></tr><tr><td>10kg</td><td>20L</td><td>100ml</td></tr></table> (2) 使用後の薬剤は水路や池にすてない。 (3) 薬液の温度は極端な低温を避けること。	乾燥種もみ	水	テクリードCフロアブル	10kg	20L	100ml	/	
乾燥種もみ	水	テクリードCフロアブル									
10kg	20L	100ml									

※ 生もみがら・わらなどは、ばか苗病・いもち病の伝染源になるので育苗資材には使用しない。

## 育苗期

※ 育苗箱施用剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。

時期	対象病害虫	使用薬剤	使用方法	注意事項	月日	防除実績(メモ)
は種前 (土壤混和)	苗立枯病 (ビシウム菌) (フザリウム菌) ムレ苗防止	—	タチガレースM粉剤 (は種前: 1回)	粉剤は1箱当り8g使用し、育苗箱土壤に均一に混和する。 (1) 適正酸度(PH4.5~5.5)の土壤を使用する。 (2) 人工培土を使用する場合でも混和する。	/	
は種時	苗立枯病 (ビシウム菌) (フザリウム菌) (リゾーブス菌) ムレ苗防止	ナエファインフロアブル (は種時: 2回以内)	—	は種時に、灌水をかねて、1箱当たり1,000倍の場合は500ml、2,000倍の場合は1mlを灌注する。 (1) リゾーブス菌・細菌性病害の発生を防ぐため、出芽の土温は30°C以上にしない。 (2) 液温を20°C前後で使用する。 (3) ムレ苗防止に使用する場合、ビシウム菌に有効。	/	
は種時~綠化期	苗立枯病 (リゾーブス菌)	—	ダコニール1000 (は種時~は種14日後: 2回以内)	500倍(20ml/10L)液を1箱当り500ml灌注する。	/	
育苗期	苗立枯病 (フザリウム菌) (ビシウム菌) ムレ苗防止	—	タチガレン液剤 (は種時又は発芽後: 2回以内)	は種7~10日後から平均気温が10°C以下の日が2~3日続いた時はタチガレン液剤500倍(20ml/10L)液を1箱当り500ml灌注して予防する。 (1) は種時までタチガレースM粉剤を使用しない場合は、タチガレン液剤の代わりにタチガレースM液剤500倍液を1箱当り500ml灌注しても良い。(使用回数1回)	/	

## 育苗箱施用剤

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使 用 時 期 使 用 回 数	使用方法	注意事項	月日	防除実績(メモ)
は種前 ~移植当日	いもち病 イネミズイウムシ イネドロオイムシ	ブーンパディート箱粒剤	は種前 1回	育苗箱の床土又は覆土に1箱当たり50gを均一に混和する。	薬害が出る恐れがあるので次の事項に注意する。 (1) 軟弱徒長苗には使用しない。 (2) 茎葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水する。 (3) 移植後は、すみやかに湛水する。 ※育苗箱1箱当たり乾粒として200~300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50~100gまでの範囲で調整する。 ※箱処理剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。	/	

カメムシ対策	耕種的防除	① カメムシの発生密度を下げるため、常日頃から畦畔・農道などの草刈り及び水田内の除草を徹底する。 ② 出穂間近の草刈りはカメムシを水田に侵入させるので、草刈りは7月20日頃までに行ない、その後8月下旬(8月25日頃)まで草刈りは行わない。	/
	特別防除	カメムシの発生が多い圃場では、7月上旬にトレボン乳剤2,000倍(収穫14日前まで3回以内)を畦畔を含む水田周辺部に90L/10a額縁散布する。	/

## 無人航空機による防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使 用 時 期 使 用 回 数	使用方法	注意事項	月日	防除実績(メモ)
穂揃期 (8/7~8/12頃)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	トップジンスタークルフロアブル	収穫 14日前まで 3回以内	4倍液を10a当たり800ml 無人航空機で散布する。	(1) 穂いもち病防除の重要な時期なので、防除を徹底する。 (2) カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	/	
穂揃期 7~10日後 (8/15~8/20頃)	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	エクシードフロアブル	収穫 7日前まで 3回以内	16倍液を10a当たり800ml 無人航空機で散布する。	(1) カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	/	

## 個人防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使 用 時 期 使 用 回 数	使用方法	注意事項	月日	防除実績(メモ)
7月下旬 (7月25日頃)	いもち病	コラトップ粒剤5	出穫30日前~5日前まで 2回以内	湛水して10a当たり3kgそれぞれ散布する。	(1) 敷設時は湛水(水深3cm以上)にし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 (2) 紹枯病が心配される所では、モンガリット粒剤10a当たり4kg使用する。(収穫30日前まで2回以内)	/	
	カメムシ類	キラップ粒剤	収穫14日前まで 2回以内				
穂揃期	ウンカ類 カメムシ類 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ	スタークル粒剤	収穫 7日前まで 3回以内	湛水して10a当たり3kg散布する。	(1) 敷設時は湛水(水深3cm以上)にし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	/	

## 水稻倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期	使用量(10a当たり)	使用回数	注意事項	月日	防除実績(メモ)
スマレクト粒剤	出穫7~20日前	2kg	1回	(1) 敷設時は湛水状態で使用する。 (2) 重複散布や多量散布にならないようにする。 (3) 敷設後7日間は落水、かけ流しはしない。	/	

## 除草剤の使用基準

- ※ 除草剤散布後7日間は落水しない。
- ※ 除草剤の散布にあたっては、畦畔等からの漏水を防止することにより、効果のアップを図る。
- ※ 移植後好天が続くと、藻類・浮草・表層はく離が多発するので、除草剤は使用適期内の早い時期に散布する。
- ※ 藻類・浮草・表層はく離が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので注意する。

◎効果高い ○効果ある △やや劣る

※ いずれか一剤使用する。

体系処理 (初期十中期)		体系処理						体系処理	
藻類対策									
藻類対策									
一発処理剤									
田植え									
(1) 粒剤									
作業									
(2) フロアブル剤									
(3) 省力散布剤									
残草対策									
刈取後の 残草対策									

## 大豆病害虫防除基準

					適正使用基準	月日
種子消毒（紫斑病・タネバエ）	ハト対策と合わせて、キヒゲンを乾燥種子重量の1%種子粉衣する。				は種前 1回	/
タネバエ	カルホス微粒剤Fを6kg/10a散布し、土とよく混和する。				は種時 2回以内	/
マメシングイガ及び紫斑病	1回目（8/25頃） マメシングイガはスミチオン乳剤1,000倍（収穫21日前まで4回以内） 紫斑病はトップシンM水和剤1,000倍（収穫14日前まで4回以内）を 混用し散布する。散布液量 100~300L/10a	2回目（9/5頃）	マメシングイガはスミチオン乳剤は、アフラナ科野菜（ハクサイ、青菜、ダイコンなど）に薬害があるので注意する。			/

## 大豆、飼料用とうもろこしの除草剤

作物	除草剤名	使用量 (10a当たり)	散布時期および使用方法	注意事項	月日
大豆	エコトップP乳剤	500ml (希釈水量 100L)	は種後出芽前 (雑草発生前) 1回 全面土壤散布	(1) 畑地1年生雑草に効果を示す。 (2) 生育期の作物に付着すると、葉先が黄化する。 (3) 砂土では使用しない。	/
飼料用 とうもろこし	エコトップP乳剤	50ml (希釈水量 100L)	生育期（とうもろこし3~5葉期） 但し、収穫45日前まで1回 雑草茎葉散布又は全面散布	(1) 展着剤は加用しない。 (2) 薬害が生ずる恐れがあるので砂土、整地及び覆土はしないに行う。 (3) 極端な過湿土壤及び砂質土壤で使用する場合には、生育を抑えることがあるので少なめに薬量を散布する。 (4) 砂土では使用しない。	/
	ブルーシアフロアブル	50ml (希釈水量 100L)			

# ねぎの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫							IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アザミウマ類	シロイモジヨトウ	ネギハモグリバエ	タマネギバエ	ネギコガ	ネキリムシ類	ネダニ類			倍数・使用量（10a）	使用時期	収穫前日数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
育苗期後半 定植当日	ネギ		○	○		○	○	28	4A	ジュリボフロアブル	200倍	育苗期後半～定植当日	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはベーハーポット1冊（約30×60cm、使用土壤約1.5～4kg）当り500mlを灌注。	/				
定植時					○	○		3A	フォース粒剤	9kg	定植時	1回	定植時までの処理は1回以内（作条土壤混和）、定植後の処理は収穫30日前まで1回以内（株元散布）。	/					
	ネギ		○					4A	ペストガード粒剤	6kg	定植時	1回	根葉処理土壤混和。	/					
	○	※	○	○			○	3A	アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回以内	※1,000倍シロイモジヨトウの適用あり。	/	/	/	/	/	
					○			16	アブロードフロアブル	1,000倍	14日前まで	1回	株元灌注。	/					
	○	○	※	○				3A	ガードベイトA	3kg	生育初期	3回以内	株元散布。	/	/				
	○	○	○	○				30	グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	※ハモグリバエ類	/					
	○	○	※	○			○	13	コテツフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/					
	ネギ	○			○			1B	ダイアジノン乳剤40	1,000倍	21日前まで	2回以内	※タマネギバエの場合は700倍で使用。	/					
	○	○	○	○				4A	ダントツ粒剤	6kg	3日前まで	4回以内	株元散布。但し、定植時までの処理は1回以内。	/	/	/	/	/	
	○	○	○	○				5	ティアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/					
	○	○	○	○			○	21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	7日前まで	2回以内	さび病、ベと病にも適用あり（FRACコード39）。	/					
	○	○						34	ファインセーブフロアブル	2,000倍	3日前まで	2回以内		/					
	○	○	※	○				28	プリロッソ粒剤オメガ	6kg	前日まで	3回以内	株元散布。 但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内。	/	/	/			
	ネギ	○						UN	フレオフロアブル	1,000倍	3日前まで	4回以内		/					
		○	※	○				28	フレバソンフロアブル5	2,000倍	3日前まで	3回以内	※ハモグリバエ類	/	/	/			
	○							4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/				

●ネギはネギアザミウマ

## 【病害防除】

作業	適用のある病害							FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	軟腐病	葉枯病	ベと病	さび病	黒斑病	小菌核腐敗病	白絹病			倍数・使用量（10a）	使用時期	収穫前日数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
	○	○	○	○		○	○	○	11	アミスター20フロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	単剤使用。混用・展着剤不可。	/	/	/	/	
	○	○	○	○	○	○	○	11	メジャーフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
	○							P2	オリゼメート粒剤	6kg	土寄せ時、3日前まで	2回以内	土寄せ時に株元散布する。	/					
		○	○					3	オソリーワンフロアブル	1,000倍	14日前まで	3回以内		/	/				
	○	○						M1	クプロシールド	1,000倍	発病前～発病初期	一	高温時の散布は避ける。浸透性展着剤との混用不可。	/	/		/	/	
	○							24	M1 カスミンボルドー	1,000倍	14日前まで	※2回以内	カスミンボル（※カスミンボルドー、カセット水和剤）の総使用回数は2回以内。	/					
	○							31	カセッット水和剤	1,000倍	14日前まで	※2回以内	カセッット水和剤（※カセッット水和剤、スターナ水和剤）の総使用回数は3回以内。	/					
	○							3	スターナ水和剤	2,000倍	7日前まで	※3回以内		/	/				
	○	○	○					M3	サプロール乳剤	1,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/	
	○	○	○					3	ジマンダイセン水和剤	600倍	14日前まで	※3回以内		/	/				
	○	○	○					M3	テーク水和剤	600倍	14日前まで	※3回以内	マンゼビを含む剤（※ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤、リドミルゴールドMZ）の総使用回数は3回以内。	/	/				
	○	○						4	M3 リドミルゴールドMZ	1,000倍	14日前まで	※3回以内		/	/				
	○	○		○				11	ユニフォーム粒剤	9kg	土寄せ時、4日前まで	1回	土寄せ時に株元土壤混和する。	/					
	○	○	○			○		11	ストロビーフロアブル	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/				
	○	○	○	○				M5	ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	3回以内		/	/				
					○			7	モンカット粒剤	4～6kg	土寄せ時、3日前まで	4回以内	土寄せ時に株元散布する。	/	/				
	○	○	○	○	○			7	バレード20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/				
	○	○	○	○				7	カナメフロアブル	4,000倍	前日まで	4回以内		/	/				
						3		ラリー水和剤	2,000倍	7日前まで	3回以内			/	/				
	○							21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内		/	/				
	○							40	レーバスフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/				
				○	○	※		2	ロブラー水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内	※白絹病の場合は500～1,000倍、1m <sup>2</sup> 当り1瓶株元灌注。	/	/				
	○							U18	バリダシン液剤5	500倍	前日まで	2回以内	※白絹病の場合は株元散布。	/	/				

●展着剤は、水和剤、フロアブルに加用する。

# ほうれんそうの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫							IRACコード	薬剤名
----	---------	--	--	--	--	--	--	---------	-----

# トマトの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫								IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)					
	ハモグリバエ類	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	トマトハダニ	ナミ	オオタバコガ	ハスモトウ			倍数・使用量(10a)	使用時期	収穫前日数	使用回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
育苗期後半	○	○	○	○					28	ベリマークSC	25ml/400株	育苗期後半～定植当日	1回	株当たり2.5ml灌注処理。 浸透移行性あり、残効性あり。	/					
定植時	○	○	○	○					4A	ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1回	植穴処理土壤混和。	/					
			外ハコ		○	○	15		アタプロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	脱皮阻害作用があるので遅効性。	/	/	/				
		オサツ					3A		アディオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	ビレスロイド剤特有の速効的ノックダウン効果を示す。	/	/	/				
	○	○	○	○	○	○	6		アファーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/		
	○	カサハロ	○				29		ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/				
	○	○	○	○	○	○	30		グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/					
	○	カサハロ	○	○	○	○	13		コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/					
		○					4A		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/					
	○	○	○				4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/					
	○	○	○			○	○	5	ティアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/					
生育期						○	○	28	フレバソソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/	/				
	○					○	○	UN	フレオフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内		/	/					
	○	○	○				4A		ベストガード水溶剤	1,000倍	前日まで	3回以内		/	/					
	○	○	○				4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/					
	○	○	○				23		モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する。 浸透移行性あり、残効性あり。	/	/	/				

●ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

●タバコはタバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)

●オンシツはオンシツコナジラミ

## 【病害防除】

作業	適用のある病害								FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)						
	疫病	苗立枯病	輪紋病	すすかび病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病			倍数・使用量(10a)	使用時期	収穫前日数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目		
育苗期	○								M4	オーソサイド水和剤80	800倍	は種後から2～3葉期	5回以内	mあたり2株をジョウロまたは噴霧器で灌注。	/	/	/	/	/		
生育期		○	○	○	○	○	○	○	7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	ベンチオビラードを含む剤(アフェットフロアブル、ベジセイバー)の総使用回数は3回以内。	/	/	/				
			○	○					11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で葉害のおそれあり。 浸透性展着剤の二つは使用しない。	/	/	/	/			
			○	○	○				1	10 ゲッター水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/			
	○	○	○	○	○				M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	4回以内	TPNを含む剤(ダコニール1000、プロボーズ顆粒水和剤、ベジセイバー)の総使用回数は4回以内。	/	/	/	/			
	○		○						40 M5	プロボーズ顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内								
	○		○						3 M3	テーク水和剤	800倍	前日まで	2回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/					
			○	○					9	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	/	/	/	/			
				○					7 M5	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で葉害のおそれあり。 予防的に散布する。	/	/	/				
									M7	ベルクート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内								
	○								21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	/	/	/				
			○	○	○	○	○	○	11	シグナムWDG	2,000倍	前日まで	2回以内								

●ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

●タバコはタバココナジラミ類(シルバーリーフコナジラミを含む)

●オンシツはオンシツコナジラミ

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫								IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)					
	ハモグリバエ類	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	トマトハダニ	オサツバコガ	倍数・使用量(10a)	使用時期			倍数・使用量(10a)	使用時期	収穫前日数	使用回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
育苗期後半	○	○	○	○			28		ベリマークSC	25ml/400株	育苗期後半～定植当日	1回	株当たり2.5ml灌注処理。 浸透移行性あり、残効性あり。	/						
定植時	○	○	○	○			4A		ベストガード粒剤	2g/株	定植時	1回	植穴処理土壤							

# きゅうりの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫					IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハダニ類	ワリノメイガ			倍数・使用量 (10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
定植時	○	オンシツ	○			1B	ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1回	定植時、作条散布又は植穴処理。	/				
	○	○	○			4A	スタークル粒剤	2g/株	定植時	1回	植穴土壤混和。	/				
	○	○	○			28	ブリロッソ粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半 ~定植時	1回	株元散布。ハモグリバエ類にも適用あり。	/				
生育期	○	オンシツ				3A	アティオン乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用をさける。	/	/	/		
		オンシツ幼虫				16	アプロード水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	成虫を直接殺す作用がないので幼虫主体の時期に散布。	/	/	/		
	○	○				29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/	/	/		
	○	○	○	○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバエ類にも適用あり。	/	/			
		カキイロ	○	○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
	○		○			6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	1,000倍でハモグリバエ類にも適用あり。	/	/			
	○	○	○			4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
		○			○	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバエ類にも適用あり。	/	/			
					○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	ハスモンコトウにも適用あり。	/	/	/		
	○	○	○		○	21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	前日まで	2回以内	うどんこ病・へと病・褐斑病にも適用あり。 (FRACコード39)	/	/			
	○	○	○		○	1B	マラソン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	1,000倍でウリハムシに適用あり。	/	/	/		
	○	○	○		○	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/		
	○	○	○	○	○	23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	速効性のため早めに使用する。	/	/	/		

※オンシツはオンシツコナジラミ ※ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

## 【病害防除】

作業	適用のある病害							FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	うどんこ病	へと病	斑点細菌病	褐斑病	炭疽病	灰色かび病	菌核病			倍数・使用量 (10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
定植時		○							P2	オリゼメント粒剤	6~7.5kg (5g/株)	定植時	1回	植穴土壤混和。	/				
	○			○	○			7	アフェットフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/	/			
	○	○	○					24	カスミンボルドー	1,000倍	前日まで	5回以内		/	/	/	/	/	
生育期			○					NC	カリグリーン	800倍	前日まで	—	展着剤を必ず加用する。	/	/	/	/	/	
		○	○	○	○	○	○	1	トップジンM水和剤	2,000倍	前日まで	5回以内	チオファネットメチルを含む剤（トップジンM水和剤、ゲッター水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	/	/	/	/	/	
			○	○	○	○		1	ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	ジエトフェンカルブを含む剤（ゲッター水和剤、スミフレンド水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	/	/	/	/	/	
			○	○	○	○		10	スミフレンド水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	TPNを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ドーシャスフロアブル）の総使用回数は12回以内とする。	/	/	/	/	/	
		○	○	○	○		○	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	12回以内		/	/	/	/	/	
		○	○	○	○		○	40	プロボース顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	TPNを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ドーシャスフロアブル）の総使用回数は12回以内とする。	/	/	/	/	/	
		○	○	○	○		○	21	ドーシャスフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内	シアソファミドを含む剤（ドーシャスフロアブル、ランマシフロアブル）の総使用回数は4回以内とする。	/	/	/	/	/	
							○	3	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/	
		○	○	○	○		○	M3	トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
			※	○	○			M7	ジマンダイセン水和剤	600倍	前日まで	7回以内	※2,000倍で褐斑病に適用あり。	/	/	/	/	/	
								M10	ベルクート水和剤	4,000倍	前日まで	7回以内	予防、治療効果あり。コナジラミ類にも適用あり。 (FRACコードUN)	/	/	/			
							3	モレスタン水和剤	2,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	/	/	/	/	/		
							45	40	ザンプロDMフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/	/	/	

# なすの防除薬剤

## 【害虫防除】

作業	適用のある害虫							IRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アブランシ類	ヨトウハシ	コナジラミ類	ツバメハシ類	ハダニ類	ハムシヨトウ	オオタバコガ			倍数・使用量 (10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
定植時	○	○					○	アザミキヤ類	4A	スタークル粒剤	1g/株	定植時	1回	植穴土壤混和。	/				
	○							アドマイヤー1粒剤	4A	1~2g/株	定植時	1回	植穴又は株元土壤混和。根に直接ふれないよう注意。	/					
	○	○					○	ブリロッソ粒剤オメガ	28	育苗期後半 ~定植時	1回	株元散布。	/						
生育期	○	オシツ	○					3A	アティオン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
	○						○	ウララDF	29	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	/</					

# キャベツの防除薬剤

## 【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)				
						倍数・ 使用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は定植前	2回以内	全面土壤混和。	/	/			
				21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内		/	/			
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないよう に。	/				
9月	生育期	ネキリムシ類	3A		フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壤混和。	/				
		ナメクジ類、カタツムリ類	未分類		スラゴ	5g/m <sup>2</sup>	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは 加害を受けた場所又は株元に配置。	/	/	/	/	/
10月	生育期	コナガ、アオムシ、ウワバ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコ カ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アオムシ、ウワバ類、カブランバチ類、コナガ、ヨトウムシ	4E		フィールドマストフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ベと病		M3	ジマンダイセン水和剤	400倍	3日前まで	3回以内		/	/			
		黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病		31	カセット水和剤	1,000倍	7日前まで	3回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、アザミウマ類	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、オオタバコカ、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハ スモンヨトウ、アザミウマ類、ウワバ類	5		ティアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコカ、ウワバ類、ハイマダラノ メイガ、ハスモンヨトウ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、アザミウマ類	21A	39	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
		ベと病、根朽病		M5	ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	2回以内	予防的に散布する。	/	/			
		アオムシ、ウワバ類、オオタバコカ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハス モンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバソソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/			
		オオタバコカ、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、タマナギンウバ、ハス モンヨトウ、アブラムシ類	3A	1B	ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/			

● 展着剤は、水和剤、フロアブルに加用する。

# はくさいの防除薬剤

## 【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)				
						倍数・ 使用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
8月	定植前	根こぶ病		36	ネビジン粉剤	20~30kg	は種又は	1回	全面土壤混和。	/				
				21	オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内		/	/			
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B		ジェイエース粒剤	3~6kg (1~2g/株)	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないよう に。	/				
9月	生育期	ネキリムシ類	3A		フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壤混和。	/				
		ナメクジ類、カタツムリ類	未分類		スラゴ	5g/m <sup>2</sup>	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは 加害を受けた場所又は株元に配置。	/	/	/	/	/
10月	生育期	アオムシ、アザミウマ類、ウワバ類、オオタバコガ、コナガ、シロイ チモジヨトウ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アオムシ、ウワバ類、カブランバチ類、キスジノミハムシ、コナガ、 シロイチモジヨトウ、ダイコンハムシ、ハイマダラノメイガ、ハスモ ンヨトウ、ヨトウムシ	4E		フィールドマストフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ベと病、黒斑病、白斑病		M3	ジマンダイセン水和剤	600倍	3日前まで	1回		/				
		軟腐病、黒斑細菌病		31	カセット水和剤	1,000倍	21日前まで	2回以内	予防的に散布する。	/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ	4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		/	/			
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ	UN		プレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		/	/			
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ	21A	39	ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/			
		ベと病、黒斑病、白斑病、白さび病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	2回以内	予防的に散布する。	/	/			
		白さび病、ベと病、ビシウム腐敗病		21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	予防的に散布する。	/	/			
		アオムシ、オオタバコガ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28		プレバソソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	/	/			
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、タマナギン ウバ、ハスモンヨトウ	3A	1B	ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	/	/			

# だいこんの防除薬剤

## 【病害虫防除】(秋冬取り)

月	作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績(使用月日)					
						倍数・ 使用量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
8月	は種前	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ	1B		ネマトリーンエース粒剤	20kg	は種前	1回	全面土壤混和。	/					
			4A		スタークル粒剤	6kg	は種時	1回	播溝土壤混和。	/					
	は種時	アブラムシ類、キスジノミハムシ、アオムシ、コナガ、カブランバチ 類、ネキリムシ類、ハイマダラノメイガ	28		ブリロッソ粒剤オメガ	6kg	は種時	1回	播溝土壤混和。	/					
9月	生育期	ネキリムシ類	3A		ガードベイトA	3kg	は種時~ 生育初期	4回以内	株元散布。	/	/	/	/	/	
		黒斑細菌病、軟腐病		31	カセット水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内		/	/	/			
		ナメクジ類、カタツムリ類	未分類		スラゴ	5g/m <sup>2</sup>	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の						

# えだまめの防除薬剤

## 【 病害虫防治 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある病害虫	IRACコード	FRACコード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
					倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
					乾燥種子 1kg当り 20ml (原液塗沫処理)	は種前	1回		カラス・ハトは豆類(未成熟)で適用あり。 チウラム剤処理種子には使用しない。	/	
は種前	紫斑病、苗立枯病、タネバエ		M3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg当り 20ml (原液塗沫処理)	は種前	1回	カラス・ハトは豆類(未成熟)で適用あり。 チウラム剤処理種子には使用しない。			
	カラス、ハト										
	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ	4A		12	4	クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg当り 8ml (原液塗沫処理)	は種前	1回	水生動物に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理する。	/
は種時	ネキリムシ類、タネバエ	1B			カルホス微粒剤F	6kg	は種時	1回	土壤表面散布、土壤混和処理。	/	
	アブラムシ類	4A			アドマイヤー1粒剤	3kg	は種時	1回	播溝土壤混和。	/	
生育期	ベと病			11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/
	ベと病、茎疫病、斑点細菌病		40	M1	フェスティバルC水和剤	600倍	前日まで	3回以内		/	/
	菌核病、灰色かび病			2	ロブラー水和剤	1,000倍	30日前まで	3回以内	予防的に散布する。	/	/
	莢汚損症、紫斑病			1	10 ゲッター水和剤	1,500倍	7日前まで	3回以内		/	/
	アブラムシ類、アザミウマ類、コガネムシ類、ハダニ類	1B			マラソン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内	1,000倍でマメシングイガ、ハモグリバエ類に適用あり。	/	/
	アブラムシ類、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	4A			ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/
	アブラムシ類、ハモグリバエ類、カメムシ類、ダイズサヤタマバエ	4A			スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	3,000倍でフタスジヒメハムシに適用あり。	/	/
	マメシングイガ、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	3A			アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		/	/
	ウコンノメイガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、マメシングイガ	28			プレバソンフロアブル5	4,000倍	3日前まで	3回以内		/	/
	マメシングイガ、カメムシ類、ハスモンヨトウ	3A			トレボン乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		/	/
	ハスモンヨトウ	28			フェニックスフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	4,000倍でウコンノメイガ、ネキリムシ類に適用あり。	/	/

# カリフラワー・ブロッコリーの防除薬剤

## 【 病害虫防治 】

月	作業	適用のある病害虫	I RAC コード		F RAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
			倍数・ 使用量 (10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	1回目		2回目	3回目	4回目	5回目						
8月	育苗期後半	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28				ベリマークSC	400倍	育苗期後半～定植当日	1回	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4kg）当り0.5kg灌注する。	/					
	定植前	根こぶ病		36			ネビジン粉剤	20～30kg	は種又は定植前	1回	全面土壌混和。	/					
	は種時 又は 定植時	ネキリムシ類、ケラ	1B				オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内	全面土壌混和又は作条土壌混和。 但し粒剤の生育期の処理は1回以内。	/					
9月	生育期	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28				プレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内		/	/	/			
		黒斑細菌病、花蕾腐敗病			M1		クプロシールド	1,000倍	発病前～発病初期	—	葉害が生ずる恐れがあるため、花蕾形成期までに散布する。 はなやさい類で登録。	/	/	/	/	/	/
		※花蕾腐敗病、※黒斑細菌病、軟腐病			31		スターナ水和剤	2,000倍	14日前まで	2回以内	※花蕾腐敗病、黒斑細菌病はプロッコリーにのみ適用あり。	/	/				
		アブラムシ類	29				ウララDF	2,000倍	14日前まで	2回以内	プロッコリーの使用時期は前日まで。	/	/				
10月		菌核病、黒すす病			11		ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	3日前まで	3回以内	はなやさい類で登録。	/	/				
		アザミウマ類、アブラムシ類	1B				マラソン乳剤	2,000～3,000倍	3日前まで	5回以内		/	/	/	/	/	/
		アザミウマ類、ウワバ類、アオムシ、 コナガ、ハスモンヨトウ	30				グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	はなやさい類で登録。	/	/				
		アブラハシ類、コナガ、アオハシ	4A				チスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	14日前まで	3回以内	カリフラワーの使用時期は7日前まで。	/	/				

- 展着剤は、水和剤に加用する。

## 野菜除草剤主要適用作物

1回

※1. バスタ液剤・ザクサ液剤は、同一成分であるグルホシネートを含んでいるため総使用回数に注意する。

※2. サンダーボルトロゴ・ラウンドアップマックスロード・草枯らしは、同一成分であるクリポホサートを含んでいため総使用回数に注意する。

※2. リンダーホルトのト・ラントアップマップスロート・草枯らしは、同一成分でめぐらしく散布前に雑草の地上部を刈り払わない。

※3. 葉害のおそれがあるため、なす（露地）に使用する場合、定植3日前までに使用する。

トレファノサイド粒剤2.5  
心電図発生前に散布する

# 果樹病害虫防除基準

## 総合防除

### 耕種的防除、物理的防除、化学的防除を組みあわせた防除

- 病害虫に侵された葉、枝、果実を取り除き、適切に処分する。
- 夏期管理においても徒長枝や邪魔な枝の剪除に努め、薬剤が十分にかかるようにする。
- 越冬病害虫の密度を下げるために粗皮けずりを行う。清耕栽培か中耕栽培を行い、草生園でも草刈り、除草を徹底する。
- 樹勢が弱まると病害虫に侵されやすくなるので、土づくり肥料や有機質などの適正量の投入により健全な樹勢を保つ。
- 枝や幹に薬剤を十分に散布する。
- 気象条件に合わせた防除を行う。(干ばつや継続的な降雨などの気象条件の時は特に留意する)
- 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。
- 薬剤散布を行う場合、気温25°C以上の時は散布を控える。  
(散布後、急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える)
- 薬剤調合時、鉄分を多く含む水は、果実の表面に障害を生じるので使用しない。

## 生物的防除

### 交信かく乱剤（性フェロモン剤）利用による防除

性フェロモンは昆虫が体外に分泌し、性行動を支配している重要な物質です。交信かく乱剤は人工的に合成した性フェロモンを園地内に充満させ、雌雄の交尾を阻害し、次世代の密度を抑制する防除方法です。

薬剤名	対象作物	設置時期	10a当り 使用量	対象害虫								
				ハマキムシ類			シンクイムシ類			モモハモ グリガ	コスカシ バ	ヒメボク トウ
				ミダレカ クモンハ マキ	リンゴコ カクモン ハマキ	リンゴモ ンハマキ	モモシン クイガ	ナシヒメ シンクイ	スモモヒ メシング イ			
コンフューザーN	果樹類	4月20日頃	150~200本	(○)	○	○	○	○				
	すもも		200本						○			
コンフューザーR	果樹類 (りんご)	4月20日頃	100本	○	○	○	○	○				
コンフューザーMM	果樹類 (もも)		120本	(○)	○	(○)	○	○		○		
ナシヒメコン	果樹類	4月20日頃	100本					○	○			
	西洋なし		7月中旬	50~100本				○				
ハマキコンーN	果樹類	5月20日頃	150本	○	○	○						
スカシバコンL	果樹類		50~100本	さくらんぼ、もも、すもも（ブルーン）、うめ、かき等で使用						○		
ボクトウコンーH	果樹類	6月上旬	100本	りんご、日本なし等							○	

※ (○) は、害虫登録はない。

※ 総合的に防除が可能なコンフューザーNを基本とする。

## 使用方法

交信かく乱剤の所定本数(コンフューザーN150~200本／10a)を越冬世代の発生初期の4月20日頃まで園地に設置する。

設置場所は目通りの高さに8割、残り2割を園地の周辺に多めに設置することが望ましい。

また、効果を高めるために、地域全体で設置する。

## 利用上の留意事項

- 小面積(1ha以下)では、設置区域外にいる既交尾雌が圃場内に飛び込んで産卵するため効果が劣るので、出来るだけ地域全体で設置する。
- 性フェロモン成分は空気よりも重いため、傾斜地や起伏の多い場所では傾斜上部の設置を1~2割多くする。
- 対象病害虫の発生密度が高いと雌雄の遭遇確率が高くなり、交尾阻害効果が期待できなくなる。
- 風の強い場所で利用する場合は、フェロモンの流亡を防ぐため、防風ネットなどを利用する。
- 対象害虫や対象外害虫が発生した場合には、殺虫剤による補完防除が必要となるため、圃場の害虫発生動向を観察する。
- 交信かく乱剤は複数年続けて使用することによって、対象害虫の発生密度を低減させる効果がある。

## ～苗木・未結実樹の防除について～

※ 近年、樹脂細菌病による枝枯れや苗木の枯死が増えてきております。定植から成木までの期間は下記により防除を徹底して下さい。

### 苗木消毒

植え付け前に、トップジンM水和剤 500倍液に10分間根部を浸漬する。（対象樹種：りんご・もも・なし 植付前1回）

### ○さくらんぼ

回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名	倍数	注意事項
1	休眠期（発芽前）	越冬病害虫	石灰硫黄合剤	10倍	(1) 定植時に発芽していない場合は、石灰硫黄合剤10倍を散布する。
	定植時（発芽～発芽7日後）	樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	
2	4月中旬～5月上旬	灰星病 褐色せん孔病 樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	(1) 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってトップジンMペーストを塗布する。（3回以内） (2) ハマキムシ類の発生が心配される場合は、バイオマックスDF2,000倍を散布する。
3	6月10日頃	褐色せん孔病 樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	
4	7月10日頃	褐色せん孔病 炭疽病 ハダニ類	トレノックスフロアブル コロマイト乳剤	500倍 1,000倍	(1) 害虫防除は、さくらんぼの防除基準を参考に行う。（殺ダニ剤は除く）
5	8月10日頃	褐色せん孔病 炭疽病	ICボルドー66D または トレノックスフロアブル	40倍 500倍	
6	9月上旬～9月中旬	褐色せん孔病 樹脂細菌病	ICボルドー66D	40倍	
7	落葉後 (11月上旬～12月上旬)	越冬病害虫 樹脂細菌病	石灰硫黄合剤 ICボルドー66D	10倍 40倍	(1) 秋期に定植を行う場合は、定植後直ちにこれらの薬剤のいずれかを散布する。

### ○りんご・西洋なし

回数	防除時期	対象病害虫		薬剤名	倍数	注意事項
		りんご	西洋なし			
1	休眠期（発芽前）	腐らん病 カイガラムシ類 ハダニ類	越冬病害虫 カイガラムシ類 ハダニ類	石灰硫黄合剤	10倍	
2	落花1週間後 (5月中旬)	輪紋病 腐らん病	輪紋病 胴枯病	トップジンM水和剤	1,000倍	(1) 脊枯病（西洋なし）の萎凋枯死花そうや枯死枝を徹底して取り除き処分する。切口にはトップジンMペーストを塗布する。（3回以内）
3	6月中旬	輪紋病 黒星病	輪紋病	ICボルドー412	30倍	
4	7月上旬	輪紋病 黒星病 (ハダニ類)	輪紋病 (ハダニ類)	ICボルドー412	30倍	(1) ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト水和剤2,000倍を散布する。
5	梅雨明け直後 (7月下旬)	輪紋病 黒星病	輪紋病 (胴枯病)	ICボルドー412	30倍	
6	8月中旬	輪紋病 黒星病	輪紋病	ICボルドー412	30倍	

### ○もも・すもも

回数	防除時期	対象病害虫		薬剤名	倍数	対象病害虫		注意事項
		もも	すもも			カイガラムシ類	ハダニ類	
1	発芽前	カイガラムシ類 ハダニ類 縮葉病		スプレー油	50倍			
				石灰硫黄合剤	10倍			
2	開花前	せん孔細菌病		ICボルドー412	30倍	黒かいよう病		
3	5月中旬	灰星病・黒星病 せん孔細菌病 アブラムシ類		トレノックスフロアブル マイコシールド モスピラン顆粒水溶剤	500倍 2,000倍 2,000倍	炭疽病 黒斑病 アブラムシ類		
4	5月25日頃	せん孔細菌病 灰星病・黒星病 枝折病		トレノックスフロアブル トップジンM水和剤	500倍 1,000倍	炭疽病 黒星病・灰星病		
5	6月25日頃	灰星病・黒星病 ホモブシス腐敗病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ		ナリアWDG フェニックスフロアブル ダニオーテフロアブル	2,000倍 4,000倍 2,000倍	灰星病 シングイムシ類 ケムシ類 ハマキムシ類 ハダニ類		
6	8月10日頃	アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	アブラムシ類 シンクイムシ類		
7	9月中旬	せん孔細菌病 縮葉病 コスカシバ		ICボルドー412 フェニックスフロアブル	30倍 4,000倍	黒かいよう病 コスカシバ		

※ 新規に定植を行う場合は、排水対策を徹底し、せん孔細菌病対策として防風ネットを必ず設置する。

# 除草剤使用基準

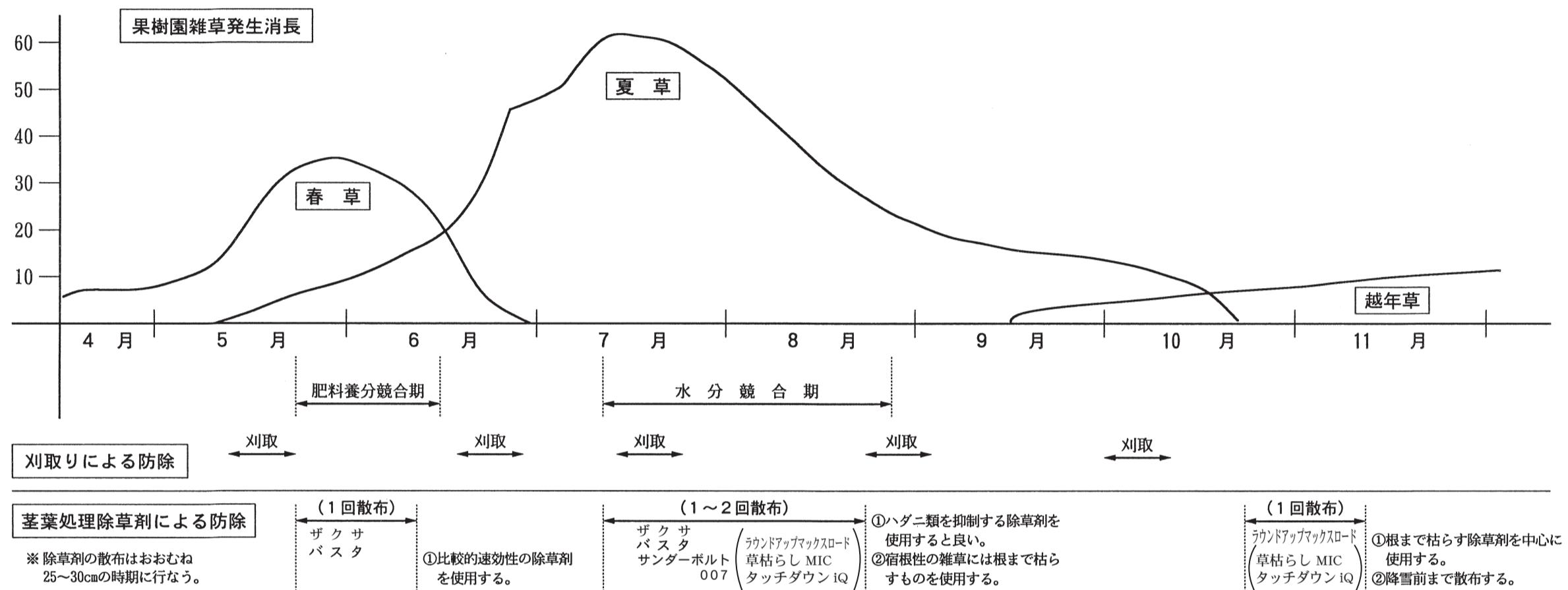
## 1 果樹園に除草剤を使用する場合の一般的留意事項

- ① 果樹は一度薬害にあうと回復するのに数年もかかることがあるので、使用にあたっては十分注意する必要がある。
- ② 敷布する水量は10a当たり150ℓを標準とし、草丈の大きいときは水量を増す必要がある。普通の農薬と違い希釈倍数でなく、単位面積当たりに投下される薬量で示されるので、水の量を多少かえてもよいが、散布むらのないように注意する。
- ③ 敷布はなるべく晴天無風の日に行ない、噴霧する霧を粗くして、吹き上げたり、風に飛ばされたりして、果樹の枝葉(とくに下枝)にかかるないようにする。できるだけ除草剤専用噴口を使用する。
- ④ 草丈が30cm以上になると、効果が劣るので時期を失しないように使用する。
- ⑤ 展着剤加用の場合は、除草剤専用のものを使用する。
- ⑥ 敷布機具や容器は専用のものを使用する。
- ⑦ 敷布に使用した器具及び容器を洗浄した水や残液は、川や池等に流入しないよう注意する。

※ ダニ剤散布予定日の7日前に除草剤を使用する。

## 果樹園の雑草管理(基本)

### 2 果樹園での除草剤使用時期



### 3 果樹園用主要除草剤使用方法

除草剤名	適用樹種	10a当たりの散布液量	10a当たりの使用薬量	効果の発現	効果の持続期間	使用場面	備考
タッチダウンiQ	果樹類 (かんきつを除く)	25~100ℓ	1年生 250~500ml 多年生 500~1,000ml (スギナ 1.5~2.0ℓ)	3~5日後 7~10日後	60日	夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25ℓ)散布の時は専用ノズルを使用する。
サンダーボルト007		100ℓ	1年生及び多年生 400~1,000ml	2~5日後	60~70日	春草・夏草生育期	1. 展着剤は加用せずむらなく散布する。 2. スペリヒュ(ヒュウ)・ギシギシに効果が高い。
草枯らしMIC		50~100ℓ	1年生 250~500ml 多年生 500~1,000ml	7~14日後		秋期越年生雑草	1. グリホサートを含む剤について下記で整理して記載する。
クサクリーン液剤		50~100ℓ	1年生 200~500ml 多年生 500~1,000ml (スギナ 1.5~2.0ℓ)	3~5日後		夏草生育期 秋期越年生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25ℓ)散布の時は専用ノズルを使用する。 3. 25倍で処理すると、スギナにも効果が高い。 4. 多年生強害雑草には高濃度でスポット処理も可能。
ラウンドアッププロード		100~150ℓ	1年生 300~500ml 多年生 500~1,000ml	2~5日後		春草・夏草生育期	
ザクサ液剤		100~150ℓ	1年生 300~500ml 多年生 500~1,000ml	2~5日後	40~50日	春草・夏草生育期	
バスタ液剤	りんご、ぶどう、もも、なし、かき、さくらんぼ、小粒核果類、ネクタリン、ブルーベリー	100~150ℓ	1年生 300~500ml 多年生 500~1,000ml	2~5日後	40~50日	春草・夏草生育期	1. りんご、ぶどうは少量(30~40ℓ)散布登録あり。 2. 少量散布の時は専用ノズルを使用する。

※ サンダーボルト007、草枯らし、クサクリーン液剤はパイナップルに適用がない。

### 4 除草剤主要適用作物

除草剤名	成 分	薬剤特性	水田畦畔	ぶどう	さくらんぼ	うめ	りんご	なし	かき	もも	すもも (ブルーベリー)	くり	樹木類
タッチダウンiQ	グリホサート を含む剤	根まで 枯らす	収穫14日前まで 2回以内	収穫5日前まで 3回以内				収穫5日前まで 3回以内				雑草生育期 4回以内	
サンダーボルト007			収穫14日前まで 2回以内	収穫7日前まで 3回以内				収穫7日前まで 3回以内					
草枯らしMIC	グリホサート を含む剤	根まで 枯らす	収穫14日前まで 2回以内	収穫7日前まで 3回以内				収穫7日前まで 3回以内				雑草生育期 4回以内	
クサクリーン液剤			収穫前日まで 3回以内	収穫7日前まで 3回以内				収穫7日前まで 3回以内					
ラウンドアップマックスロード	グルホシナー トを含む剤	地上部 のみ	収穫7日前まで 3回以内	収穫前日まで	収穫2日前まで	収穫前日まで	収穫3日前まで	収穫3日前まで	収穫3日前まで	収穫3日前まで	収穫3日前まで	収穫3日前まで	雑草生育期 4回以内
ザクサ液剤			収穫7日前まで 3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内
バスタ液剤			収穫7日前まで 3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内

※ グリホサートを含む剤(ラウンドアップマックスロード、タッチダウンiQ、サンダーボルト007、草枯らし、クサクリーン液剤)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ グルホシナートを含む剤(ザクサ液剤、バスタ液剤等)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ 雜草生育期の草丈は30cm以内(作物によっては20cm以内)まで処理を行う。

## 紋羽病対策

## 土壤灌注

薬剤名 フロンサイドSC

作物名	適用病害虫	使用時期	使用回数	希釗倍数	使用方法	
りんご	白紋羽病 紫紋羽病 りんごのみ	収穫45日前まで	1回	500倍	500倍の場合 1樹当たり50~100㍑土壌灌注	灌注水量が 100㍑以上 必要な場合、 1,000倍液 を処理する。
なし		収穫30日前まで		または	1,000倍の場合 1樹当たり100~200㍑土壌灌注	
ぶどう		収穫21日前まで		1,000倍		
もも		収穫30日前まで		500倍	1樹当たり50~100㍑土壌灌注	
さくらんぼ		収穫30日前まで				

※ 土壤灌注は対象樹だけでなく広範囲に実施した方が効果が高い。

※ 生育期間中でも紋羽病の影響で生育が思わしくない場合は土壤灌注を行う。なお、その場合、収穫前使用日数を厳守する。

## 系統別 農薬一覧

殺虫剤					
IRACコード	系統名	農薬名	IRACコード	系統名	農薬名
1A	カーバメート系	オリオン			
1B	有機リン系	スミチオン ダイアジン ガットキラー ジエイース エルサン オルトラン マラソン	11A	BT系	バイオマックス ファイブスター デルフィン エスマルク エコマスター チューンアップ トアロー
3A	合成ピレスロイド系 (注意:魚類に対する毒性が極めて強い)	アグロスリン バイスロイド スカウト テルスター トレボン アディオン ロディー	14	ネライストキシン系	パダン
4A	ネオニコチノイド系	モスピラン ダントツ バリアード スタークル アクトラ アドマイヤー <sup>+</sup> ベストガード	16	IGR系	キチン合成阻害
4C	スルホキシミン系	トランスフォーム	18		
5	スピノシン系	ディアナ	28	ジアミド系	フェニックス エクシレル サムコル プレバソン テッパン
9B	ピリジン アゾメチレン誘導体	コルト	29	吸汁阻害剤	ウララ
			30	イソオキサゾリン系	グレーシア

殺菌剤(主として糸状菌用)							
FRACコード	系統名	農薬名	予防・治療	FRACコード	系統名	農薬名	予防・治療
1	MBC殺菌剤	ベンレート トップジンM	予防 治療剤	BM2	微生物剤	エコホープDJ ボトキラー	予防剤
2	ジカルボキシミド系	ロブラー スマレックス	予防 治療剤	M1	有機銅剤	オキシンドー キノンドー ドキリン (オキシラン)	予防剤
3	DMI(EBI) (エコ"ストロール生合成阻害)	インダー オンリーワン スコア マネージ サンリット オーシャイン トリフミン テクリード	予防 治療剤	M3	有機硫黄	アントラコール ジマンダイセン トレノックス ベンコゼブ	予防剤
7	SDHI	パレード フルーツセイバー カナメ	予防 治療剤	M7	ビスグアニジン系	ベルクート	予防剤
3+7	DMI+SDHI (混合剤)	アクサー	予防 治療剤	M9	キノン	デラン	予防剤
11	ストロビルリン系 (QoI)	アミスター ストロビー ファンタジスタ スクレア フリント (ナリア)	予防 治療剤	M11	マレイミド系	ストライド	予防剤
25	抗生物質	アグレプト マイコシールド	予防 治療剤	P7	ホセチル	アリエッティ	予防剤
52	DHODHI	ミギワ	予防 治療剤	U18	トレハラーゼ阻害	バリダシン	予防剤

殺ダニ割の登録一覧表

(2026年用)

JA全農山形 資材エネルギー部 肥料

2025年11月28日 作成

※1: ( ) 内に表示されている記載欄には、各該欄に記載する内容を基に、本会議研究の実績結果ならびにメカニカル的情報を参考に黒板記載して評価した内容となっています。  
 ※2: 本章記載内容は、前章記載の要旨が変更してしまった場合があるため、ご使用される際にはラベルの範囲内を正確に確認して、「ご指導」をいただきたい旨を記入して下さい。  
 なお、記載している希望倍数については、希望濃度の高い希望倍数のみを記載しています。

※本資料作成以降に農薬の適用内容が変更になる場合もあるため、ご使用される際にはラベルの登録内容をご確認ください。  
※各薬剤共、ボルドー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるので留意願います。

※各薬剤共、ホルトー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるので留意願います。  
※殺ダニ剤は抵抗性出現を防止するため同一成分及び同一系統 (IRACコードを確認する) の薬剤は年一回の使用を厳守する。但し、気門封鎖剤 (アカリタッチ乳剤) は除

# 令和8年 さくらんぼ病害虫防除暦

JJAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (葉量/水100ml)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×)		
休眠期	カイガラムシ類 →	① スプレーオイル 50倍 (2.5ml)	発芽前 —	350ml	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の継続時に使用する。 (2) 灰星病の発生を防止するため休眠期中に全面耕うんし、地表面の乾燥を防ぐ。 (3) 灰星病防除のため樹上のミイラ果を除去し埋没する。 (4) カイガラムシ類の発生が多い園地は、太枝にブラシかけを行い、天気の良い温暖な日を選び散布する。 (5) 前年灰星病の発生が多かった園地では、トップシンM水和剤1,000倍(14日前まで3回以内)を加用散布する。	/	/		
	カイガラムシ類幼虫 →	② アプロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内						
大玉生産と摘果作業の労力削減のため、3月中旬～4月上旬に摘芽を行う。									
灰 星 病 重 点	開花直前	幼果菌核病・灰星病 褐色せん孔病・炭疽病 ハマキムシ類	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 5回以内	450ml	(1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	/	/	
		ケムシ類	② バイオマックスDF 2,000倍 (50g)	前日まで —					
防 除	満開期 (平年 佐藤錦 4月25日頃)	幼果菌核病 褐色せん孔病 灰星病 黒斑病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500ml	(1) 前年幼果菌核病の多い園地では散布時期が遅れない様に注意する。 (2) 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってキズの癒合促進のため、トップシンMペーストを塗布する。(3回以内) (3) 前年、炭疽病の発生した園地ではオーソサイド水和剤800倍(3日前まで5回以内)を加用散布する。 (4) キャプタントを含む剤(オキシラン水和剤、オーソサイド水和剤80)の総使用回数は5回以内とする。	/	/	
		② ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内						
防 除	前回散布7日後	灰星病 褐色せん孔病 炭疽病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500ml	(1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。 (2) オーソサイド水和剤80は、ももの発芽後の若葉に薬害が発生するおそれがあるので飛散に注意する。	/	/	
		② オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	3日前まで 5回以内						
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。									
防 除	前回散布7日後 (5月中旬)	灰星病 黒かび病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500ml	(1) 灰星病、ナミハダニの発生を防止するため、この時期以降園地の草刈を徹底する。 (2) 褐色せん孔病の発生が多かった園地では、オーソサイド水和剤800倍(3日前まで5回以内)を加用散布する。オーソサイド水和剤80は、ももの発芽後の若葉に薬害が発生するおそれがあるので飛散に注意する。 (3) ハマキムシ類の発生が多い園地では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで2回以内)を加用散布する。	/	/	
		② ロブラー水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内						
防 除		③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 1回						
		フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策はスカシバコン】 50～100本/10a】						/	
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。								
前回散布10日後 (5月下旬) 被覆前散布	灰星病 ショウジョウバエ類 カメムシ類 ハダニ類	① スコア顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500ml	(1) この回以降収穫が終わるまで展着剤は使用しない。 (2) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (3) テルスター風アブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/		
		② テルスター風アブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 2回以内						
		③ ダニオーテ風アブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回						
○ 摘果が遅れた場合には、摘果した果実を適正に処理する。 ○ 果実は、適期収穫を行い、過熟果にならぬうちに収穫を終了する。 ○ 病虫害果・キズ果・過熟果等のもぎ残しは、きれいに収穫し処分(土中に埋める)する。									
6月上旬	灰星病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	① カナメ風アブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内	500ml	※この時期のショウジョウバエの発生に注意する。	/	/		
		② スターカル颗粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内						
6月中旬	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500ml	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サンニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/	/		
		② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内						
6月下旬	灰星病・炭疽病・黒斑病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類 カメムシ類	① オンリーワン風アブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500ml	(1) テルスター風アブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/		
		② テルスター風アブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 2回以内						
7月上旬 (晩生種)	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類	① ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500ml	(1) 今回以降、収穫が終わらない場合は、灰星病・黒斑病対策としてオンリーワン風アブル2,000倍(前日まで3回以内)、オウトウショウジョウバエ対策としてダントツ水溶剤2,000倍(前日まで2回以内)を散布する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サンニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/	/		
		② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内						
褐色せん孔病・炭疽病対策として、雨よけハウスの被覆を外したら降雨前に薬剤散布を行う。									
収穫後 重 点	褐色せん孔病 アフラムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ ハダニ類	① トレノックス風アブル 500倍 (200ml)	21日前まで 5回以内	500ml	(1) ダニ剤を散布する場合は、ダニ剤散布4日前に草刈を実施し、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、収穫が終わらない場合は、コロマイト乳剤1,000倍(7日前まで1回)を単用散布する。(展着剤は加用しない) コロマイト乳剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害のおそれがあるので注意する。 以降も、ハダニ類の発生が継ぐ園地では、カネマイト乳剤1,000倍(7日前まで1回)にアカリタッヂ乳剤2,000倍(前日まで1回)を加用し散布する。(展着剤は加用しない)	/	/		
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	14日前まで 2回以内						
		③ ダニゲッタ風アブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 1回						
7月中下旬 (前回散布14日前)	せん孔病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500ml	(1) オキシラン水和剤600倍 (166g) 収穫終了後～落葉期まで3回以内	/	/		
		② オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで 3回以内						
8月上旬	せん孔病 カイガラムシ類幼虫	① オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで 3回以内	500ml	※ウメシロカイガラムシ重点防除時期(第2回孵化期)ウメシロカイガラムシの発生が多い園地では8月上旬散布7日後にパリアード顆粒水和剤4,000倍を追加散布する。(前日まで2回以内)	/	/		
		② アプロード風アブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内						
9月上旬	コスカシバ ハマキムシ類	① フェニックス風アブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内	500ml	(1) 灰星病、褐色せん孔病の発生が多い園地では落葉後清耕し、越冬菌の密度を下げる。	/	/		
9月中旬～落葉後	褐色せん孔病 樹脂細菌病	① ICボルドー66D 40倍 (2.5kg)	発病前～発病初期 —	400ml	(1) 褐色せん孔病の発生が多い園地では、9月中旬に必ず散布する。さらに、翌年の越冬菌密度を低下させるため、落葉後も必ず散布する。	/	/		

# 令和8年 もも病害虫防除暦

JJAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (葉量/水100kg)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×モ)	
大玉生産と摘果作業の労力削減の為、開花前までに摘らいを行う。								
発芽前 〔平年発芽〕 (3月19日頃)	カイガラムシ類 灰星病・黒星病 せん孔細菌病・縮葉病 カイガラムシ類幼虫	①スプレー油 50倍 (2kg) ②トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) ③アプロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	発芽前 — 7日前まで 5回以内 14日前まで 3回以内	350kg	(1) 前年度の灰星病の被害果及び被害枝は徹底して除去する。 (2) トレンックスフロアブルは、7日前まで5回以内を必ず散布する。	/		
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ハマキムシ・シンクイムシ・モモハモグリガ対策はコンピューターMM120本/10a】								
開花前	せん孔細菌病 縮葉病	①ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	350kg	(1) 開花始め以降は薬害が発生するので散布しない。 (2) ICボルドー412に代えてクロシールド1,000倍 (発病前~発病初期) を散布してもよい。	/		
せん孔細菌病の伝染源となる春型枝病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、園地を見回り発病枝は見つけしだい基部から剪除し、癒合促進のためバッヂレート (3回以内) を塗布する。 風当たりの強い園地では防風ネットを必ず設置する。また、スピードスプレーヤで防除する場合、風量を葉が傷まない程度に落として防除する。(生育期間)								
落花直後 (80%落花時)	うどんこ病・黒星病 灰星病・灰星病 ホモブシス腐敗病 黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモブシス腐敗病 ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ シンクイムシ類	①オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ②デランフロアブル 600倍 (166ml) ③フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内 7日前まで 4回以内 前日まで 2回以内	350kg		/		
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。								
前回散布 10日後	灰星病・黒星病 せん孔細菌病・縮葉病 せん孔細菌病 アブランムシ類 カメムシ類・シンクイムシ類	①トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) ②マイコシールド 2,000倍 (50g) ③モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 5回以内 21日前まで 5回以内 前日まで 3回以内	400kg	(1) せん孔細菌病の発生が多い園地では、ICシンク水和剤1,000倍 (発病前~発病初期8回以内) を5月中に単用で追加散布する。	/		
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策はスカシバコンL 50~100本/10a】【ハマキムシ対策はハマキコン-N 150本/10a (すでにコンピューターMMを設置した場合は必要ない)】								
5月下旬 (5/25頃)	黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモブシス腐敗病 カイガラムシ類・アブランムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類 カイガラムシ類・ハダニ類	①デランフロアブル 600倍 (166ml) ②ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g) ③モベントフロアブル 2,000倍 (50ml)	7日前まで 4回以内 前日まで 4回以内 7日前まで 3回以内	400kg		/		
6月上旬	黒星病・せん孔細菌病 果実赤点病 せん孔細菌病 アブランムシ類・シンクイムシ類 モモハモグリガ	①ペンコゼブ水和剤 600倍 (166g) ②マイコシールド 2,000倍 (50g) ③バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	21日前まで 3回以内 21日前まで 5回以内 前日まで 3回以内	400kg	さくらんぼ園地への飛散に注意	/		
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
6月中旬	黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモブシス腐敗病 アブランムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ ハダニ類	①デランフロアブル 600倍 (166ml) ②スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml) ③ダニオーテフロアブル 2,000倍 (50ml)	7日前まで 4回以内 前日まで 5回以内 前日まで 1回	400kg	(1) デランフロアブルは、果実に汚れる場合があるので乾きやすい時間帯に使用する。 (2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (3) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さくらんぼ園地への飛散に注意</span>	/		
6月下旬 (6/25頃)	黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモブシス腐敗病 アブランムシ類・カイガラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類・カムシ類	①デランフロアブル 600倍 (166ml) ②モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 4回以内 前日まで 3回以内	400kg	(1) さくらんぼに飛散する恐れがある園地では、デランフロアブルをナリアWDG2,000倍 (前日まで2回以内) に代えて散布する。(せん孔細菌病に適用なし) (2) ナリアWDGは、西洋なし (ル・レクチエ) ふどう (ピオーネ、藤稔、サンリールージュ、シャルドネ) に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/		
7月上旬	黒星病・黒星病 ホモブシス腐敗病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ (ハマキムシ類)	①スクレアフロアブル 3,000倍 (33ml) ②バリダシン液剤5 500倍 (200ml) ③エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内 7日前まで 4回以内 前日まで 3回以内	400kg	さくらんぼ園地への飛散に注意	/		
7月中旬 (袋かけ前)	黒星病 灰星病 カイガラムシ類・アブランムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類 ハダニ類	①インダーフロアブル 5,000倍 (20ml) ②ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g) ③マイトコーネフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 4回以内 前日まで 4回以内 前日まで 1回	400kg	(1) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニの発生が多い園地では、コロマイト乳剤1,000倍 (7日前まで1回) を単用散布する。 (3) コロマイト乳剤は、西洋なし (ル・レクチエ) に薬害のおそれがあるので注意する。	/		
7月下旬	黒星病・黒星病 ホモブシス腐敗病 カブランムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	①ベルクートフロアブル 2,000倍 (50ml) ②テルスターフロアブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 3回以内 前日まで 2回以内	400kg	(1) テルスターFロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/		
8月上旬	黒星病・黒星病・炭疽病 ホモブシス腐敗病 アブランムシ類・シンクイムシ類 モモハモグリガ	①オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ②バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内	400kg		/		
8月以降、ナシヒメシンクイの発生が多いため、収穫を終了した園地でも、シンクイムシ類の防除を実施する。								
8月中旬	黒星病・黒星病 ホモブシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ (ハマキムシ類)	①ナリアWDG 2,000倍 (50g) ②エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 2回以内 前日まで 3回以内	400kg	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし (ル・レクチエ) ふどう (ピオーネ、藤稔、サンリールージュ、シャルドネ) に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/		
8月下旬 (晩生種)	黒星病 灰星病 アブランムシ類・カイガラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類・カムシ類	①インダーフロアブル 5,000倍 (20ml) ②モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 4回以内 前日まで 3回以内	400kg	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。	/		
9月上旬 (晩生種)	黒星病・黒星病 ホモブシス腐敗病 アブランムシ類 シンクイムシ類・モモハモグリガ	①ベルクートフロアブル 2,000倍 (50ml) ②スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内 前日まで 5回以内	400kg	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。 (2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/		
9月中下旬 (晩生種)	うどんこ病・黒星病 灰星病・ホモブシス腐敗病 シンクイムシ類 ハマキムシ類・モモハモグリガ	①ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ②サムコルフロアブル10 5,000倍 (20ml)	前日まで 3回以内 前日まで 2回以内	400kg	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。	/		
せん孔細菌病重点防除	収穫後 (9月上旬以降)	せん孔細菌病 ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ シンクイムシ類	①アビオントE (展着剤) 2,000倍 (50ml) ②ICボルドー412 30倍 (3.3kg) ③フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	— — 前日まで 2回以内	400kg	(1) ICボルドー412 30倍を使用できない園地では、トレノックスフロアブル500倍 (7日前まで5回以内) を必ず散布する。 (2) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	/	
(前回散布14日後)	せん孔細菌病	①アビオントE (展着剤) 2,000倍 (50ml) ②ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	— —	400kg	(1) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	/		
(前回散布14日後)	せん孔細菌病	①アビオントE (展着剤) 2,000倍 (50ml) ②ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	— —	400kg	(1) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	/		
コスカシバの発生が多い園地では、ガットキラー乳剤100倍 (落葉後~萌芽前1回) を樹幹及び主枝に十分散布する。								

# 令和8年 西洋なし病害虫防除暦

JJAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100kg)	農業使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×m)
発芽前 (平年7・7月23日頃)	カイガラムシ類 ハダニ病・黒星病 腐病・輪紋病 輪紋病 カイガラムシ類幼虫	①スプレー油 50倍 (2kg) ②トップジンM水和剤 1,000倍 (100g) ③アプロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	発芽前 — 前日まで 6回以内 30日前まで 2回以内	350kg	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の続く時に使用する。 (2) 薬剤散布前に必ず粗皮削りを行う。 (3) 5月中旬まで輪紋病のいぼ皮病斑は必ず削り取りトップジンMベースト(3回以内)を塗布する。	/	
胴枯病対策	西洋なしは胴枯病に弱く、薬剤だけでは防げないため、以下の耕種的防除を実施する。常日頃から園地を見て回り、早期発見に努める。 病害部を少しでも残すと再発するので、発病部を発見したら剪除し、切れない枝は健全部を含めて大きく削り取り、トップジンMベースト(3回以内)を塗布する。 健全な樹勢を保ち枝の更新に努め、明るい風通しの良い園地づくりを目指す。					/	
4月下旬 (4/20頃)	ナシヒメシンクイ	①ナシヒメコン 100本	—	100本	(1) 7月中旬(7/15頃)に10a当たり50~100本を必ず追加設置する。	/	
		前年、黒斑細菌病の発生がみられた園地では、開花前にICポルドー412 30倍を散布する。				/	
満開直後 (100%開花時)	黒星病・黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類 シンクイムシ類	①オキシラン水和剤 600倍 (166g) ②フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	21日前まで 9回以内 前日まで 2回以内	400kg	(1) 訪花昆虫の活動時間前(15°Cになる前)にできるだけ防除を終了する。 (2) 有機銅を含む(オキシンドー水和剤80、オキシラン水和剤)の総使用回数は12回以内(但し、塗布は3回以内、散布は9回以内)とする。	/	
		ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。					
		胴枯病・カイガラムシ対策として、散布ムラのないように枝幹に十分かかるように散布する。					
5月上旬 (落花1週間後)	うどんこ病 黒星病 腐病 輪紋病 アブラムシ類・カムシ類 シンクイムシ類	①アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ②トップジンM水和剤 1,000倍 (100g) ③モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	— 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内	400kg	(1) 胴枯病の萎凋枯死花そや、枯死枝は病部を確認し、徹底して取り除き処分する。 (2) 訪花昆虫の活動時間前(15°Cになる前)にできるだけ防除を終了する。	/	
5月下旬 (5/25頃)	黒星病・黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫	①オキシラン水和剤 600倍 (166g) ②ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g) ③バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	21日前まで 9回以内 14日前まで 6回以内 — (肥料登録)	500kg	(1) 輪紋病・胴枯病の重要な防除時期である7月下旬まで枝幹にも十分散布する。 (2) キャプタンを含む(オキシラン水和剤、オーソサイド水和剤80)の総使用回数は9回以内とする。	/	
6月上旬	うどんこ病・黒星病 腐病・輪紋病 輪紋病 カイガラムシ類・アザミウマ類 アブラムシ類・ハダニ類	①トップジンM水和剤 1,000倍 (100g) ②モベントフロアブル 2,000倍 (50ml) ③バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内 14日前まで 3回以内 — (肥料登録)	500kg	(1) この回以降、輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので、防除間隔がかかるないようにする。 (2) 敷布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。 (3) さくらんぼに隣接している園地では、トップジンM水和剤に代えてファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)を散布する。	/	
6月中旬	心腐れ症(胴枯病菌) 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	①デランフロアブル 1,000倍 (100ml) ②バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g) ③ダニコングフロアブル 2,000倍 (50ml) ④バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	60日前まで 4回以内 前日まで 3回以内 前日まで 1回 — (肥料登録)	500kg	(1) 細ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。  <b>さくらんぼ園地への飛散に注意</b>	/	
6月下旬 (6/25頃)	黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 アブラムシ類 カムシ類 シンクイムシ類 ハダニ類	①ナリアWDG 2,000倍 (50g) ②テルスターフロアブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 3回以内 前日まで 2回以内	500kg	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サンニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。 (2) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので、養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (3) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害、さくらんぼの果実に汚れを生じるおそれがあるので注意する。	/	
前回散布10日後	ハマキムシ類 カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	③コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ④バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内 — (肥料登録)		(4) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害、さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、ナリアWDGに代えてオキシラン水和剤600倍(21日前まで9回以内)を散布する。		
		※有機銅剤散布後すぐに降雨があった場合追加散布する。薬剤散布を行う場合は、気温25°C以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。					
7月上旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 カムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類	①アビオント(展着剤) 2,000倍 (50ml) ②オキシラン水和剤 600倍 (166g) ③スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	— 21日前まで 9回以内 前日まで 3回以内	500kg	(1) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和剤に代えてファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)を散布する。	/	
7月中旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫 ハダニ類	①アビオント(展着剤) 2,000倍 (50ml) ②オキシラン水和剤 600倍 (166g) ③ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g) ④マイトコーンフロアブル 1,000倍 (100ml)	— 21日前まで 9回以内 14日前まで 6回以内 前日まで 1回	500kg	(1) 細ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を単用散布する。コロマイト水和剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害のおそれがあるので注意する。 以降も、ハダニ類の発生が続く園地では、カネマイトフロアブル1,000倍(前日まで1回)にアカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで1回)を加用し散布する。 (展着剤は加用しない)	/	
7月中旬 (7/15頃)	ナシヒメシンクイ	①ナシヒメコン 50~100本	—	50~100本		/	
7月下旬	黒星病 黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類	①アビオント(展着剤) 2,000倍 (50ml) ②オキシラン水和剤 600倍 (166g) ③バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	— 21日前まで 9回以内 前日まで 3回以内	500kg		/	
8月上旬	うどんこ病・黒星病 腐病・輪紋病 輪紋病 シングイムシ類 ハマキムシ類	①トップジンM水和剤 1,000倍 (100g) ②バイスロイドEW 2,000倍 (50ml)	前日まで 6回以内 7日前まで 2回以内	500kg	(1) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。  <b>輪紋病対策</b> 早生種に飛散する恐れがない園地では、収穫前日数に注意し、オキシラン水和剤600倍(21日前まで9回以内)を加用散布する。	/	
8月中旬	黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 シングイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	①ナリアWDG 2,000倍 (50g) ②エクシレルSE 2,500倍 (40ml) ③コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内 前日まで 3回以内	500kg	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サンニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。 (2) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/	
8月下旬	うどんこ病・黒星病 腐病・輪紋病 輪紋病 シングイムシ類 アブラムシ類	①アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ②トップジンM水和剤 1,000倍 (100g) ③バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	— 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内	500kg		/	
9月上旬	黒星病・炭疽病 輪紋病 シングイムシ類 ハマキムシ類	①アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ②オーソサイド水和剤80 600倍 (166g) ③ディアナWDG 5,000倍 (20g)	— 3日前まで 9回以内 前日まで 2回以内	500kg		/	
9月中旬	黒星病・黒斑病 輪紋病 シングイムシ類 ハマキムシ類	①パレード15フロアブル 2,000倍 (50ml) ②アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 2回以内 前日まで 3回以内	500kg	(1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
9月下旬	黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 シングイムシ類 ハマキムシ類	①ナリアWDG 2,000倍 (50g) ②エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内	500kg	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サンニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/	

※ オキシラン水和剤は、令和8年(2026)3月に登録内容の変更を予定しております。防除暦には変更後の内容を反映し記載しております。

2025年11月1日現在

# 令和8年りんご病害虫防除暦 (No1)

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100kg)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使 用 回 数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)			
散布前までに輪紋病の原因となる、いぼ皮病斑をけずり取りトップシンMペースト(3回以内)を塗布する。										
発芽直前 (平年ふじ発芽 3月30日頃)	カイガラムシ類 ハダニ類 腐らん病 黒星病 黒星病 カイガラムシ類幼虫	①スプレー油 50倍 (2kg) ②トップシンM水和剤 1,000倍 (100g) ③トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) ④アプロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	発芽前 — 前日まで 6回以内 30日前まで 5回以内 30日前まで 2回以内	350kg	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の続く時に使用する。  (1) ICボルドー412を散布できない園地では、アイヤース1,000倍にパサポート顆粒水和剤1,000倍(45日前まで3回以内)を加用散布する。					
黒星病対策として雨前散布を原則とし、散布間隔を10日以上あけない。薬液は十分量(400kg以上/10a)散布する。										
黒星病 (花そぞ葉が2~3枚) 展葉期 雨前散布	黒星病 斑点落葉病 輪紋病 褐斑病・炭疽病	①ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	400kg	(1) ICボルドー412を散布できない園地では、アイヤース1,000倍にパサポート顆粒水和剤1,000倍(45日前まで3回以内)を加用散布する。  (1) ストライド顆粒水和剤は、開花前までの総使用回数を2回以内とする。					
黒星病 モリニア病 前回散布7日後 雨前散布	黒星病 モリニア病	①アイヤース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ②ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	— 開花前まで 2回以内	400kg	(1) ストライド顆粒水和剤は、開花前までの総使用回数を2回以内とする。					
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ナシヒメシンクイ対策はナシヒメコン100本/10a】										
摘花剤の散布	摘花剤としてエコルーキー100~150倍(2回以内)を、満開日(側花が7~8割開花した時期)に散布する。えき花芽を対象に追加散布を要する場合は1回目散布の2~3日後に散布する。10a当たり300~600kgめしに充分薬液がかかるように散布する。(中心花の結実が良好と思われる場合に使用) SSで散布する場合はファンを止めて散布する。									
特別散布 防除間隔があく場合 雨前散布	斑点落葉病 黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病 炭疽病・赤星病	①トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	30日前まで 5回以内	400kg						
黒星病 モリニア病 開花直前 (平年ふじ開花始 5月2日頃) 雨前散布	黒星病・褐斑病 黒点病・うどんこ病 斑点落葉病・赤星病 黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病 炭疽病・赤星病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 キンモンホリガ	①カナメフロアブル 4,000倍 (25ml) ②トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) ③フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内 30日前まで 5回以内 前日まで 2回以内	400kg	(1) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。  (1) 腐らん病の発生している園地では、トップシンM水和剤1,000倍(前日まで6回以内)を必ず散布する。 (2) ハマキムシ類の発生が見られる園地では、バイオマックスDF2,000倍を加用散布する。 (3) マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずるおそれがあるので注意する。					
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。										
落花直後 ふじの中心花 80%落花時 雨前散布	うどんこ病 黒星病・褐斑病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病 黒星病・炭疽病	①アイヤース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ②スコア顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ③ジマンダイセン水和剤 600倍 (166g)	— 14日前まで 3回以内 30日前まで 3回以内	400kg	(1) 腐らん病の発生している園地では、トップシンM水和剤1,000倍(前日まで6回以内)を必ず散布する。 (2) ハマキムシ類の発生が見られる園地では、バイオマックスDF2,000倍を加用散布する。 (3) マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずるおそれがあるので注意する。					
腐らん病対策	常日頃から腐らん病に注意して園地を見て回り、早期発見に努める。発病部を発見したら病害部は、健全部を含めて大きく削り取り、トップシンMオイルペースト原液(3回以内)を塗布する。病害部が幹全体におよんでいる場合は、樹全体を処分(根元から切り取り処分)する。枝腐らんは切り取り処分する。									
前回散布 7日後 雨前散布	黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病 うどんこ病・褐斑病 黒星病・腐らん病 アラムシ類・カムシ類 リンゴワタムシ	①ジマンダイセン水和剤 600倍 (166g) ②トップシンM水和剤 1,000倍 (100g) ③モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) ④バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	30日前まで 3回以内 前日まで 3回以内 前日まで 3回以内 — (肥料登録)	500kg	(1) マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずるおそれがあるので注意する。  (1) リンゴワタムシの発生が多い園地では、主幹部までていねいに散布する。					
5月下旬 (落花15日後) 雨前散布	黒星病・褐斑病 黒点病・赤星病 斑点落葉病・輪紋病 コアオカスミカメ・リンゴワタムシ カイガラムシ類・アラムシ類	①アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g) ②トランスマーフロアブル 2,000倍 (50ml) ③バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内 前日まで 3回以内 — (肥料登録)	500kg	(1) リンゴワタムシの発生が多い園地では、主幹部までていねいに散布する。  <b>さくらんぼ園地への飛散に注意</b>					
6月上旬 雨前散布	黒星病 黒点病・褐斑病 斑点落葉病・輪紋病 カイガラムシ類・アラムシ類 リンゴワタムシ	①ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ②モベントフロアブル 2,000倍 (50ml) ③バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内 14日前まで 3回以内 — (肥料登録)	500kg	<b>黒星病対策</b> さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、トレノックスフロアブル500倍(30日前まで5回以内)を加用散布する。					
前年、モモシンクイガの発生が多かった園地では、カルホス微粒剤Fを10a当たり5kg(夏薬栽培時~第一世代成虫羽化期4回以内)6月中旬~7月に2回地表面散布する。										
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。									
6月中旬 (6/15頃) 雨前散布	黒星病・黒点病 うどんこ病 斑点落葉病・赤星病 カムシ類・シンクイムシ類 リンゴワタムシ ハダニ類	①アクサーフロアブル 2,000倍 (50ml) ②バリード顆粒水和剤 2,000倍 (50g) ③ダニコングフロアブル 2,000倍 (50ml) ④バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	14日前まで 3回以内 前日まで 3回以内 前日まで 1回 — (肥料登録)	500kg	(1) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 有機銅剤は満開40日(6月中旬)以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 (3) リンゴワタムシの発生が多い園地では、トランスマーフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)を加用散布する。					
6月下旬 (6/25頃) 雨前散布	黒星病 黒点病・褐斑病 斑点落葉病・輪紋病 アラムシ類・カムシ類 キンモンホリガ シンクイムシ類・ハダニ類 アラムシ類・カイガラムシ類 リンゴワタムシ	①ナリアWDG 2,000倍 (50g) ②テルスターフロアブル 3,000倍 (33ml) ③コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g) ④バイカルティ(カルシウム肥料) 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内 前日まで 1回 前日まで 3回以内 — (肥料登録)	500kg	(1) 降雨等により防除間隔があくと褐斑病が発生しやすくなるので注意する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)など(ビオーネ、藤稔、サンルーニュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。 (3) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (4) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害、さくらんぼの果実に汚れを生じるおそれがあるので注意する。					
※ 薬剤散布を行う場合は、気温25℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。 仕上げ摘果は遅くても6月下旬まで終わらせる。(昇林は7月中旬まで)										

2025年11月1日現在

# 令和8年りんご病害虫防除暦 (No2)

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100kg)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)			
果実腐敗病害重防除	黒星病・黒点病 輪紋病 斑点落葉病 アブラムシ類 カメムシ類・キンモンホソガ コナカイガラムシ類 シンクイムシ類	① アイエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500kg	(1) 斑点落葉病の伝染源を少なくするため余分な徒長枝は剪除する。 (2) 有機銅剤は散布後降雨があると、薬害が発生するので注意する。 (3) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和剤をファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)に代えて散布する。 (4) キャプタンを含む剤(オキシラン水和剤、ダイパワー水和剤、アリエッティC水和剤)の総使用回数は6回以内とする。	/	/			
		② オキシラン水和剤 700倍 (142g)	14日前まで 4回以内							
		③ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内							
	黒星病・黒点病 輪紋病 斑点落葉病 アブラムシ類 キンモンホソガ ナシヒメシンクイ ナミハダニ リソゴハダニ	① オキシラン水和剤 700倍 (142g)	14日前まで 4回以内	500kg	(1) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を単用散布する。コロマイト水和剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害のおそれがあるので注意する。 以降も、ハダニ類の発生が続く園地では、カネマイツフロアブル1,000倍(7日前まで1回)にアカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで1回)を加え散布する。 (展着剤は加用しない)					
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	30日前まで 4回以内							
	黒星病・黒点病 輪紋病 斑点落葉病 褐斑病・黒星病 輪紋病 カメムシ類・シンクイムシ類 リソゴワタムシ	③ マイトコーンフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 1回	500kg	青つがる(盆用)には、オキシラン水和剤に代えてダイパワー水和剤1,000倍(前日まで6回以内)、ダイアジノン水和剤34に代えてオリオン水和剤40 1,000倍(前日まで2回以内)を散布する。					
		① アイエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—							
		② オキシラン水和剤 700倍 (142g)	14日前まで 4回以内							
		③ トップジンM水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内							
落果防止剤の使用	「つがる」は収穫開始予定日の約21日前に、ヒオモン水溶剤2,000倍を10a当たり350~400kg散布する。その後追加散布を要する場合は7~10日程度後に2回目散布を行う。(収穫開始予定日の21日~4日前2回以内)			500kg	(1) 有機銅を含む剤(オキシラン水和剤等)の総使用回数は7回以内(但し、塗布は3回以内、散布は4回以内)とする。 (2) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/			
8月上旬	黒星病・黒点病 輪紋病 斑点落葉病 アブラムシ類・カメムシ類 キンモンハモグリガ・ハマキムシ類 キンモンホソガ・シンクイムシ類	① オキシラン水和剤 700倍 (142g)	14日前まで 4回以内	500kg	青つがる(盆用)には、オキシラン水和剤に代えてアリエッティC水和剤800倍(前日まで3回以内)を散布する。	/	/			
		② バイスロイドEW 2,000倍 (50ml)	7日前まで 4回以内							
8月中旬	黒星病 黒点病・褐斑病 斑点落葉病・輪紋病 アブラムシ類・カイガラムシ類 リソゴワタムシ	① アイエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500kg	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチエ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サンリージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。 (2) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチエ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/	/			
		② ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内							
		③ コルト顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内							
8月下旬	黒星病・斑点落葉病 輪紋病・褐斑病 すす点病・すす斑病 カメムシ類・シンクイムシ類 リソゴワタムシ	① アイエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500kg		/	/			
		② ダイパワー水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内 但し、開花期以降は3回以内							
		③ バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内							
9月上旬	褐斑病 すす点病・すす斑病 斑点落葉病・輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	① ベルクートフロアブル 1,500倍 (66ml)	前日まで 6回以内 但し、開花期以降は3回以内	500kg	(1) 腐らん病対策として、収穫した早生種(つがる)にも散布を行う。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/			
		② アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 2回以内							
落果防止剤の使用 (平年値)	ヒオモン水溶剤2,000倍を10a当たり300~600kg散布する。(収穫開始予定日の21日~4日前2回以内)									
	昂林 9月 1日頃			王林 10月 1日頃						
	やたか・千秋 9月 5日頃			こうとく 1回散布の場合: 10月10日頃 2回散布の場合: 1回目10月1日頃 2回目10月15日頃						
	紅玉・スターキング 9月10日頃									
	秋陽 9月10日頃									
9月中下旬	褐斑病 すす点病・すす斑病 炭疽病 ハマキムシ類 シンクイムシ類	① ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花から 収穫前日まで 3回以内	500kg	(1) ストライド顆粒水和剤の総使用回数は、開花前は2回以内、開花後から収穫前日までは3回以内とする。	/	/			
		② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内							
9月下旬~10月上旬 降雨が多い場合の特別散布	褐斑病 すす点病・すす斑病 炭疽病	① ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花から 収穫前日まで 3回以内	500kg	(1) 今回以降収穫前まで、低温で降雨が続く場合は、ナリアWDG2,000倍(前日まで3回以内)を散布する。 (2) ストライド顆粒水和剤の総使用回数は、開花前は2回以内、開花後から収穫前日までは3回以内とする。	/	/			
休眠期	腐らん病 黒星病	① アピオン-E (展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	400kg	(1) 腐らん病(黒星病)防除のため、必ず散布する。	/	/			
		② トップジンM水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 6回以内							
		③ ベルクート水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 6回以内 但し、開花期以降散布は3回以内							
黒星病対策	黒星病の発生が多い園地では来年の越冬菌密度を低下させる為、耕種的防除としてDL消石灰(100kg程度/10a)を散布する。									

※ オキシラン水和剤は、令和8年(2026)3月に登録内容の変更を予定しております。防除暦には変更後の内容を反映し記載しております。

2025年11月1日現在

# 令和8年 ぶどう(ジベ処理テラ)病害虫防除暦 JAてんどう

## 晩腐病対策のためのカサかけ・枝かけ具の徹底

- 第2回ジベ処理直後できる限り早くカサかけを行なう。
- カサかけが遅れると効果が劣る。
- カサかけは、雨もりを防ぐため果梗に密着するよう丁寧に行なう。
- カサかけと枝かけ具の併用は、更に効果が高い。
- 枝かけ具は休眠期から5月下旬までにかけ、その後風などですれた場合は効果が劣るので隨時手直しする。
- 収穫後できるだけ早く除去する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100kg)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
休眠期	晩腐病 黒とう病 つる割病	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	休眠期 1回	200kg	(1) 前年の房とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は、晩腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトッブジンMベースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) 前年ブドウラカミキリの発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を加用散布する。	/	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。							
展葉2～3枚 (5月上旬)	枝膨病・晩腐病 黒とう病・ベと病 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 ブドウラカミキリ	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml) ② スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	落葉期まで (但し、75日前まで) 2回以内 前日まで 3回以内	200kg	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	/	
第1回目ジベレリン処理は満開予定日の約14日前に100ppm(2kgの水に薬量は200mg)で実施する。 処理が遅れた場合は、アグレブト液剤1,000倍を加用して処理する。							
開花直前 第1回ジベ処理後 (6月上旬)	晩腐病・黒とう病 うどんこ病・ベと病 灰色かび病 コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ② テーク水和剤 1,000倍 (100g) ③ アグロスリン水和剤 2,000倍 (50g)	45日前まで 2回以内 21日前まで 5回以内	300kg	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
落花直後 (6月中旬)	晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病・ベと病 カメムシ類・コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml) ② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	30日前まで 3回以内 前日まで 3回以内	300kg	(1) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (2) アミスター10フロアブルはりんごに薬害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	/	
第2回ジベ処理後 (6月下旬)	黒とう病・晩腐病 さび病・灰色かび病	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	300kg	(1) 6月下旬になると、晩腐病の胞子が雨によって多く飛散するので、ていねいに散布する。	/	
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。						
7月上旬	黒とう病 晩腐病・褐斑病 灰色かび病・うどんこ病 ハダニ類	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml) ② コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 3回以内 7日前まで 2回以内	300kg	(1) ハダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	/	
ベと病・さび病の多発する園地では、7月上中旬の3回棚上面からICボルドー66D 50倍(300kg以上/10a)を散布する。							
仕上げ摘房は、坪当たり45房を目安に7月上旬頃まで終了する。							
収穫直後	ベと病 さび病 スカシバ類 ハマキムシ類 ケムシ類	① アビオナーE(展着剤) 2,000倍 (50ml) ② ICボルドー66D 50倍 (2kg) ③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	発病前～発病初期 — 14日前まで 2回以内	300kg	(1) さび病、ベと病の発生が多い園地では、9月上旬にもICボルドー66D 50倍(発病前～発病初期)を散布する。 (2) ブドウラカミキリの多い園地では、休眠期にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を散布する。 ガットキラー乳剤はアブラナ科野菜(はくさい、せいさい、だいこん)などに薬害があるので注意する。	/	

2025年11月1日現在

# 令和8年 ぶどう(大粒種)病害虫防除暦

JJAてんどう

(シャインマスカット・キャンベル・ナイガラ・スチューベン・ピオーネ・巨峰等)

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100ℓ)		農 收 穫 前 使 用 基 回 期 数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
		露地栽培	雨よけハウス栽培					
休眠期 (ビニール被覆前)	晚腐病 黒とう病 つる割病	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	休眠期 1回	200ℓ	(1) 前年の落としの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は晚腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年晚腐病が発生した園地では、結果母枝にツヅジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) 前年ノドウラカミキリの発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を加用散布する。	/	
晚腐病・ベと病の発生が多い園地では、展葉初期までにICボルドー66D 100倍を単用散布する。								
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。								
展葉2~3枚 (5月上旬)	枝腐病・晚腐病 黒とう病・ベと病 チャノキロアザミウマ コナカイガラムシ類 カメムシ類 ブドウラカミキリ	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml) ② スターカル颗粒水溶剤 2,000倍 (50g)	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml) ② スターカル颗粒水溶剤 2,000倍 (50g)	落弁期まで (但し、75日前まで) 2回以内	200ℓ	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	/	
展葉7~8枚 (5月下旬)	黒とう病 晚腐病・褐斑病 さび病・ベと病 うどんこ病 黒とう病・さび病	① アイエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ② ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g) ③ マネージDF 5,000倍 (20g)	① アイエース(展着剤) 10,000倍 (10ml) ② ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g) ③ マネージDF 5,000倍 (20g)	— 45日前まで 2回以内 21日前まで 3回以内	200ℓ	(1) この回以降、マンゼブを含む剤(ベンコゼブ水和剤、テーク水和剤等)を使用する場合、総使用回数は2回以内とする。	/	
クビアカスカシバ対策	フェニックスフロアブル500倍(開花前まで1回)を樹幹部に十分かかるよういねいに単用散布する。							
開花前 (6月上旬)	晚腐病 黒とう病 晚腐病・褐斑病 さび病・ベと病 チャノキロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ スカシバ類	① ミギワ20フロアブル 4,000倍 (25ml) ② ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g) ③ パダンSG水溶剤 1,500倍 (66g)	① ミギワ20フロアブル 4,000倍 (25ml) ② ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g) ③ パダンSG水溶剤 1,500倍 (66g)	前日まで 3回以内 45日前まで 2回以内 14日前まで 2回以内	300ℓ	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。 さくらんぼ園地への飛散に注意	/	
落花直後 (6月中旬)	灰色かび病・ベと病 黒とう病・晚腐病 褐斑病・さび病・枝枯病 ベと病 チャノキロアザミウマ ハスモンヨトウ ブドウサビダニ	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml) ② ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g) ③ グレーシアフロアブル 4,000倍 (25ml)	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml) ② ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g) ③ グレーシアフロアブル 4,000倍 (25ml)	30日前まで 3回以内 30日前まで 3回以内 7日前まで 2回以内	300ℓ	(1) 満開時の散布をさける。 (2) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (3) アミスター10フロアブルはりんごに薬害が出るので対応飛散しない様に注意する。	/	
6月下旬	うどんこ病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病 ベと病 アザミウマ類 クビアカスカシバ	① カナメフロアブル 4,000倍 (25ml) ② アリエッティ水和剤 800倍 (125g) ③ ディアナWDG 10,000倍 (10g)		前日まで 3回以内 30日前まで 3回以内 前日まで 2回以内	300ℓ			
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
落花15日後 (7月上旬)	黒とう病・晚腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキロアザミウマ ハダニ類	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml) ② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g) ③ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml) ② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g) ③ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 3回以内 前日まで 3回以内 7日前まで 2回以内	300ℓ	(1) ダニ剤散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 露地栽培で、ベと病が発生した場合は、ベトファイター顆粒水和剤2,000倍(30日前まで3回以内)を単用散布する。	/	
袋かけ前 (7月中旬)	黒とう病・晚腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 チャノキロアザミウマ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内 14日前まで 1回	250ℓ	(1) テルスターFロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
袋かけ直後 (7月下旬)	ベと病 黒とう病・晚腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 チャノキロアザミウマ コガネムシ類	① レーバスフロアブル 3,000倍 (33ml) ② フルーツセイバー 1,500倍 (66ml) ③ テッパン液剤 2,000倍 (50ml)	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml) ② フルーツセイバー 1,500倍 (66ml) ③ テッパン液剤 2,000倍 (50ml)	7日前まで 3回以内 7日前まで 3回以内 前日まで 2回以内	250ℓ	(1) さび病の多発する園地では、ICボルドー66D 50倍(発病前～発病初期)を棚上から散布する。	/	
収穫前 (8月中旬)	黒とう病・晚腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキロアザミウマ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内	250ℓ	(1) さび病、ベと病の多発する園地では、この回以降もICボルドー66D 50倍(発病前～発病初期)を棚上から散布する。	/	
収穫後	ベと病 さび病 スカシバ類 ハマキムシ類 ケムシ類	① アビオンE(展着剤) 2,000倍 (50ml) ② ICボルドー66D 50倍 (2kg) ③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	① アビオンE(展着剤) 2,000倍 (50ml) ② ICボルドー66D 50倍 (2kg) ③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	— 発病前～発病初期 14日前まで 2回以内	300ℓ	(1) ブドウラカミキリの多い園地では、休眠期にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を散布する。ガットキラー乳剤はアブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに薬害がでるので注意する。	/	

【植物成長調整剤使用基準】 (シャインマスカット・ピオーネ等)

使用薬剤	使用時期			使用回数
	満開予定14日前 ～開花始期	1回目 満開時から満開3日後	2回目 満開10～15日後	
アグレプト液剤	1,000倍			1回
ジベレリン粉末		12.5～25ppm	25ppm	2回
フルメット液剤		2～5ppm (10cc当り5～25ml)		1回
フラスター液剤	①新梢展開葉10～11枚時(開花始期まで) 2,000倍 (150ml/10a) 1回目 ②満開10～20日後(但し、収穫60日前まで) 1,000倍 (300ml/10a) 2回目 ※フラスター液剤は、新梢伸長抑制効果があるため、樹勢が弱い樹には使用しない。			2回以内

ジベレリン粉末 1包当りの水量

剤型	成分量 (1包当り)	ジベレリン濃度	
		12.5ppm	25ppm
粉末1号	50mg	4%	2%
粉末3号	200mg	16%	8%

2025年11月1日現在

# 令和8年 すもも(フルーン)病害虫防除暦

JJAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100kg)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
発芽前	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍 (2kg)	発芽前 —	350kg	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用を避け好天の続く時に使用する。 (2) 発芽前までに遅れない様に散布する。 (3) 枝を洗うようにていねいに散布する。	/	/
	ふくろみ病	② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	14日前まで 3回以内				
	カイガラムシ類幼虫	③ アプロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	14日前まで 2回以内				
フェロモン剤設置時期 (4月20日頃) 【 ナシヒメシンクイ、スマモヒメシンクイ対策は、ナシヒメコン100本/10a 】							
黒斑病	開花前	黒斑病 かいよう病	① ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	350kg	(1) 前年、黒斑病・かいよう病が発生した園地では必ず散布する。 (2) 開花前まで遅れないように散布する。	/
	4月下旬 (満開3日後)	黒斑病	① アイヤース (展着剤) 10,000倍 (10ml) ② マイコシールド 2,000倍 (50g)	— 21日前まで 3回以内	350kg		
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤 (BT剤を除く) の散布は行わない。							
病重点	5月上旬	黒星病 灰星病 黒斑病 かいよう病 ケシクイムシ類 コハシマキムシ類	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ② アグレブト水和剤 1,000倍 (100g) ③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内 30日前まで 2回以内 前日まで 2回以内	400kg	(1) ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取り土中深く埋める。	/
	5月中旬 (殺虫剤解禁直後)	炭疽病 ふくろみ病 黒斑病 アブランムシ類 カジンクイムシ類	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) ② マイコシールド 2,000倍 (50g) ③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	14日前まで 3回以内 21日前まで 3回以内 前日まで 3回以内			
	フェロモン剤設置時期 (5月20日頃) 【 コスカシバ対策はスカシバコンL 50~100本/10a、ハマキムシ対策はハマキコンN 150本/10a 】						
防除	5月下旬	炭疽病 ふくろみ病 アブランムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 アブランムシ類	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml) ② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g) ③ モベントフロアブル 2,000倍 (50ml)	14日前まで 3回以内 21日前まで 4回以内 7日前まで 3回以内	400kg	早生種の散布は収穫21日前まで終了する。	/
	6月上旬	黒星病 灰星病 黒斑病 アブランムシ類 (シンクイムシ類)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml) ② マイコシールド 2,000倍 (50g) ③ バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内 21日前まで 3回以内 前日まで 2回以内			
	6月中旬	アブランムシ類 シンクイムシ類 ハダニ類	① スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml) ② ダニオーテフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内 前日まで 1回		(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (2) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	/
6月下旬	6月下旬	灰星病 黒星病 アブランムシ類 カジンクイムシ類	① ナリアWDG 2,000倍 (50g) ② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内 前日まで 3回以内			
	7月上旬	灰星病 ケムシ類 シンクイムシ類	① インダーフロアブル 5,000倍 (20ml) ② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 4回以内 前日まで 3回以内	400kg	(1) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイド乳剤1,000倍(前日まで1回)を単用散布する。 コロマイド乳剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害のおそれがあるので注意する。	/
	7月中旬	黒星病 灰星病 アブランムシ類 カジンクイムシ類 ハダニ類	① スクレアフロアブル 3,000倍 (33ml) ② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) ③ マイトコーネフロアブル 1,000倍 (100ml)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内 3日前まで 1回			
7月下旬	8月上旬 (8/10頃)	アブランムシ類 カジンクイムシ類	① テルスターFロアブル 3,000倍 (33ml)	前日まで 2回以内	400kg	(1) テルスターFロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/
	8月中旬 (8/20頃)	黒星病 灰星病 アブランムシ類 (シンクイムシ類)	② バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内			
	8月中下旬 (8/20頃)	灰星病 すす点病 シンクイムシ類 アブランムシ類	① アミスター10Fロアブル 1,000倍 (100ml) ② スカウトフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内		(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 晚生種のみ散布する。	/
9月上旬 (除袋後)	9月上旬 (除袋後)	灰星病 ケムシ類 シンクイムシ類	① インダーフロアブル 5,000倍 (20ml) ② エクシレルSE 2,500倍 (40ml)	前日まで 4回以内 前日まで 3回以内	400kg		
	黒斑病重点防除	黒斑病 かいよう病 コスカシバ	① アビオンE (展着剤) 2,000倍 (50ml) ② ICボルドー412 30倍 (3.3kg) ③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	— — 前日まで 2回以内	黒斑病の多発した園地では、ICボルドー412 30倍を前回散布14日後に追加散布する。	/	
	コスカシバの発生が多い園地では、ガットキラー乳剤100倍(落葉後~萌芽前1回)を樹幹及び主枝に十分散布する。(100~450kg/10a)						

2025年11月1日現在

# 令和8年 うめ病害虫防除暦

JAてんどう

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100kg)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
3月中旬 (発芽前)	カイガラムシ類	① スプレー油 50倍 (2kg)	発芽前 —	350kg	(1) 品種や系統によって発芽時期が異なるので適期防除に努める。 (2) マシン油等を使用するときは、低温時の使用を避け、好天の続くときに使用する。	/	/
	黒星病	② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 2回以内				
	カイガラムシ類幼虫	③ アプロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内				
4月下旬 (落花直後)	黒星病 すす斑病	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	350kg	(1) ヤニ吹き果の多い樹では、この回以降3回、ヨーヒB5、800倍を加用散布する。	/	/
		② オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	21日前まで 3回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤 (BT剤を除く) の散布は行わない。							
5月上旬	黒星病 すす斑病	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400kg	(1) 訪花昆虫保護のため、訪花昆虫の活動前 (15°Cになる前) に防除を終了する。	/	/
		② ナリアWDG 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内				
	アブラムシ類	③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期 (5月20日頃) 【コスカシバ対策 スカシバコン L 50~100本/10a】							
5月中旬 (5/20頃)	黒星病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 2回以内	400kg		/	/
6月上旬	アブラムシ類 アメリカシロヒトリ シンクイムシ類 ハマキムシ類	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400kg		/	/
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	21日前まで 2回以内				
6月中旬 (6/15頃)	黒星病・すす斑病 灰星病 アブラムシ類 シンクイムシ類 アカマダラケシキスイ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400kg	(1) 日中高温時 (25°C以上) の散布はさける。	/	/
		② バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	前日まで 2回以内				
ハダニ類が発生した場合は、ダニオーテフロアブル2,000倍 (前日まで1回) を散布する。							
9月中旬 (収穫後)	ケムシ類 コスカシバ	① フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内	400kg		/	/

# 令和8年 かき病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100kg)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
休眠期 (発芽前)	カイガラムシ類	① スプレー油 50倍 (2kg)	発芽前 —	350kg	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。	/	/
	カイガラムシ類幼虫	② アプロード水和剤 1,000倍 (100g)	開花期まで 但し、45日前まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤 (BT剤を除く) の散布は行わない。							
5月中旬	アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノヘタムシカ	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400kg		/	/
		② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
開花直前 (5月下旬頃)	落葉病・炭疽病 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類 オオワタコナカイガラムシ 若齢幼虫	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500kg		/	/
		② オーソサイド水和剤80 1,000倍 (100g)	7日前まで 5回以内				
		③ ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内				
満開期 (6/10頃)	炭疽病・うどんこ病 落葉病・灰色かび病 アザミウマ類 カキノヘタムシカ カメムシ類	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500kg	(1) 落葉病とアザミウマ類防除の重要な時期なので、遅れないように葉裏まで、ていねいに散布する。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/
		② アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
6月中旬	炭疽病・落葉病 うどんこ病 アザミウマ類 カキノヒメヨコバイ	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	30日前まで 2回以内	500kg		/	/
		② ダントツ水溶剤 4,000倍 (25g)	7日前まで 3回以内				
7月中旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病 アザミウマ類 カキノヘタムシカ カメムシ類	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500kg	(1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで 5回以内				
		③ アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
7月下旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病 アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノヘタムシカ	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500kg		/	/
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで 5回以内				
		③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
8月上旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病 アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノヘタムシカ	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 3回以内	500kg	(1) アザミウマ類防除の特に重要な時期である。 (2) 降雨の続く場合は、落葉病対策としてさらに9月上旬にナリアWDG 2,000倍 (前日まで2回以内) を散布する。但し、ナリアWDGは、西洋なし (ルレクナ)、ぶどう (ピオーネ、藤稔、サンルーニュ、シャルドネ) に葉害が生じるおそれがあるので注意する。 (3) チャノキイロアザミウマの発生が多い場合は、9月上旬にテルスター10フロアブル 3,000倍 (3日前まで2回以内) を散布する。テルスター10フロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	/
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内				
カメムシ類の発生が多い場合は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 (前日まで3回以内) を散布する。							

2025年11月1日現在